証券コード 6524

湖北工業はアルミ電解コンデンサ用リード端子と
海底光通信用部品のリーディングカンパニーです。

2024年12月期中間期
決算説明資料

湖北工業株式会社
2024年8月8日

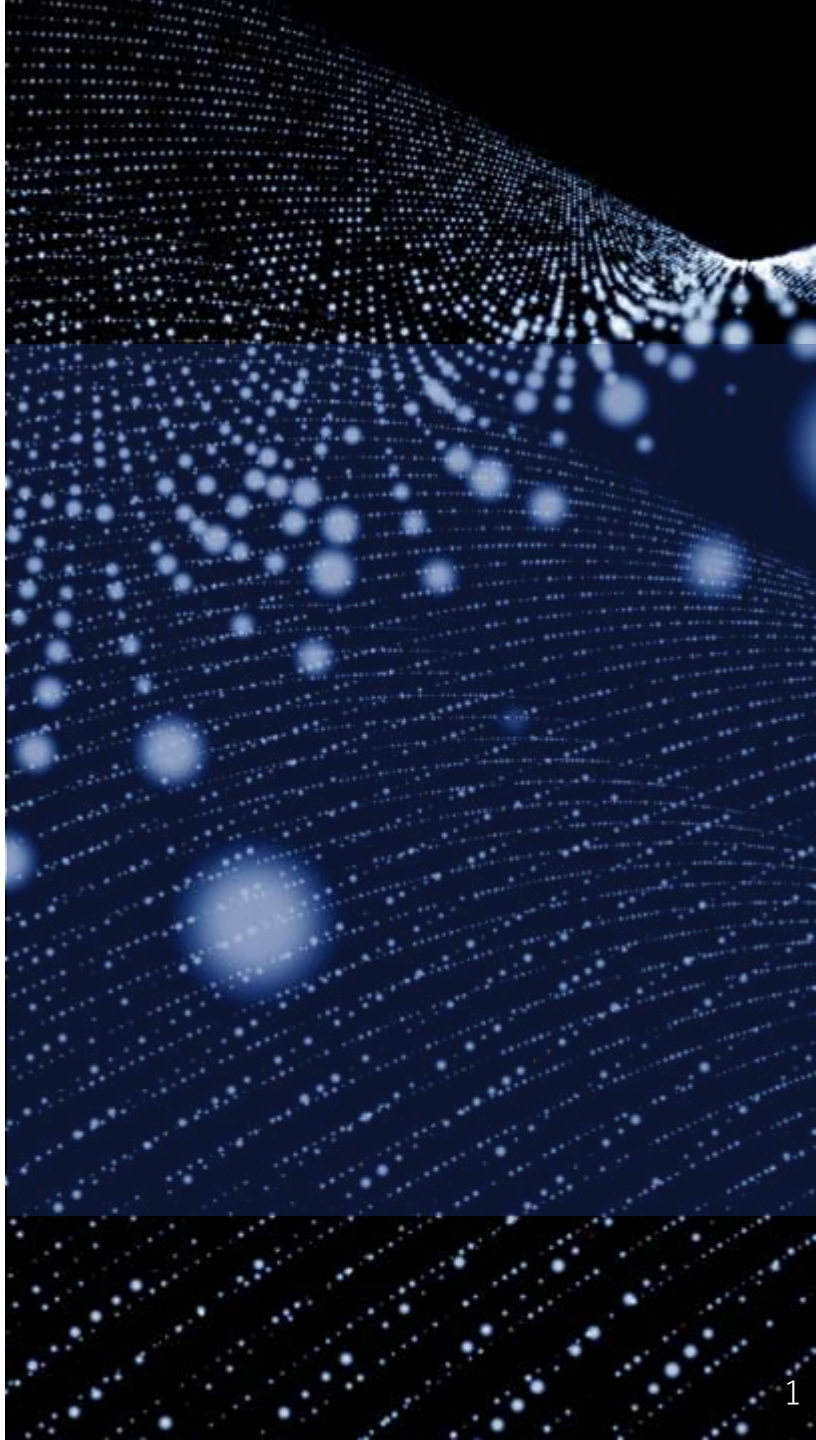
目次

Ⅰ. 2024年12月期中間期 決算概況 2024年12月期 業績見通し …… P. 2

Ⅱ. 2024年12月期中間期 セグメント別の状況 …… P. 11

Ⅲ. トピックス …… P. 21

Ⅳ. 参考資料 …… P. 25



Ⅰ. 2024年12月期中間期 決算概況
2024年12月期 業績見通し

2024年12月期(中間期)のハイライト

・主力の2事業ともに市場の調整が終了して回復傾向となり、売上・利益が計画に対して上振れで着地

・リード端子事業は自動車市場向けの受注回復により、前年同期比7.8%増収（計画比では10.4%の増収）

・光部品・デバイス事業は、在庫調整の一巡と海底ケーブル市場における投資再開により前年同期比12.0%の増収、下期に向けて受注はさらに改善、通期で大幅営業増益を見込む

● 事業環境

- 自動車用エレクトロニクス市場では、環境対応車の普及やADASに代表される高機能化が進展、ハイブリッドコンデンサの夏以降の大幅増産体制に向けて回復傾向
- 情報通信機器市場などは、企業におけるIT需要の拡大等により調整局面からプラス成長への転換がみられたが、回復力は弱い
- 海底ケーブル市場向は、新規海底ケーブルプロジェクトが発表される等、先行き見通しが改善、受注は想定を上回る回復傾向

● 業績（中間期）

- 売上は前年同期比9.7%（683百万円）の増収、計画を13.3%（907百万円）上回った
- 営業利益は前年同期比6.1%（102百万円）の増益、計画を25.3%（361百万円）上回った

損益計算書（中間期）の概要

主力２事業ともに底打ちから回復局面入りし、前年同期比9.7%の増収、同6.1%の営業増益

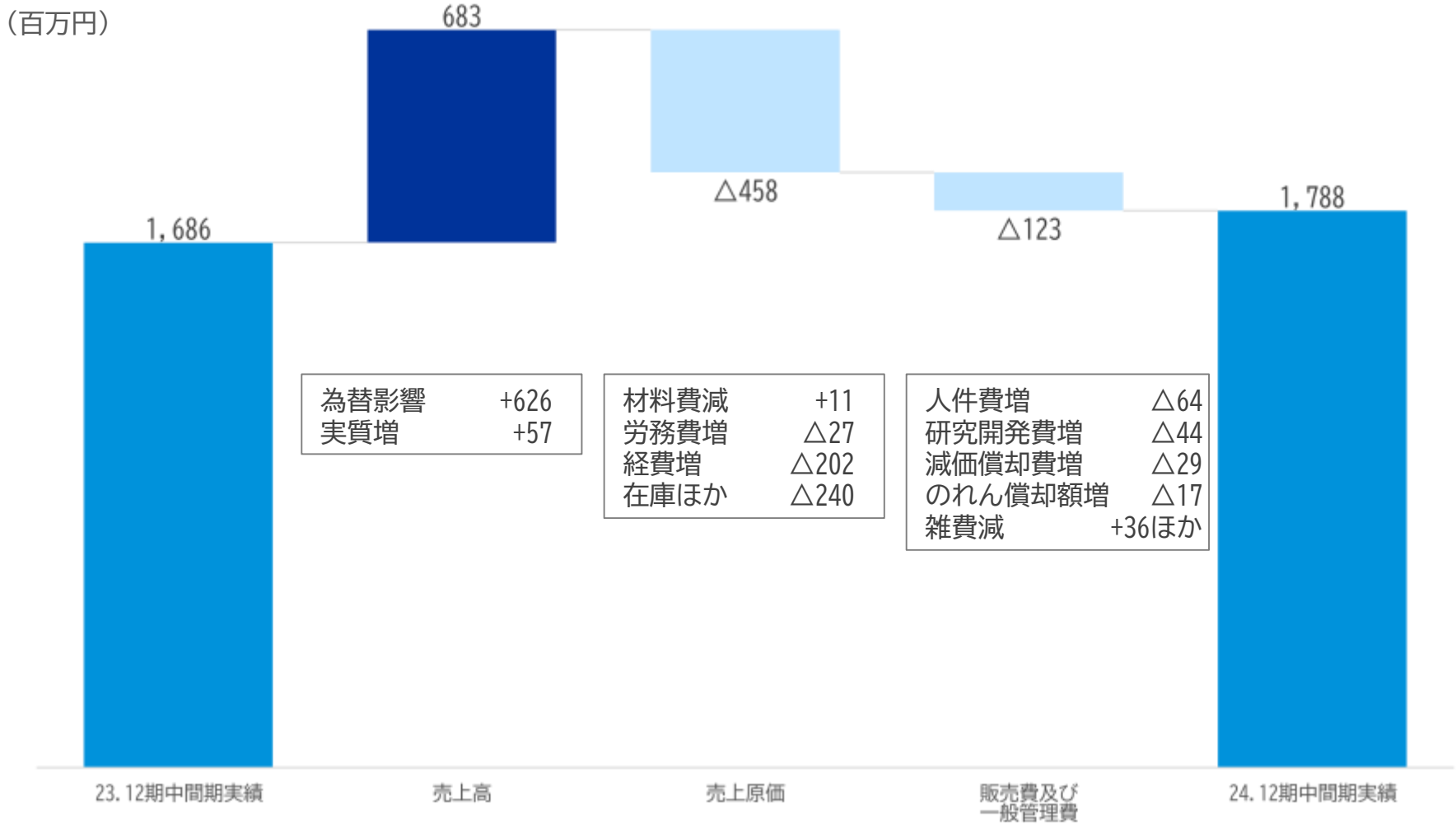
（百万円）

	2023.12期 中間期（1月-6月）	2024.12期 中間期（1月-6月）	2024.12期 前年同期比		2024.12期 1Q（1月-3月）	2024.12期 2Q（4月-6月）	2024.12期 直前四半期比	
売上高	7,023	7,707	+683	+9.7%	3,413	4,294	+880	+25.8%
リード端子事業	3,789	4,086	+297	+7.8%	1,929	2,157	+228	+11.8%
光部品・デバイス事業	3,234	3,621	+386	+12.0%	1,484	2,136	+652	+43.9%
営業利益	1,686	1,788	+102	+6.1%	635	1,152	+516	+81.3%
営業利益率	*24.0%*	*23.2%*	*△0.8pt*	-	*18.6%*	*26.8%*	*+8.2pt*	―
リード端子事業	157	119	△38	△24.3%	△13	132	+146	―
光部品・デバイス事業	1,528	1,669	+140	+9.2%	649	1,020	+370	+57.1%
経常利益	2,185	2,753	+568	+26.0%	1,130	1,622	+492	+43.5%
親会社株主に帰属する中間／四半期純利益	1,344	1,791	+447	+33.3%	724	1,066	+341	+47.1%
為替レート（期中平均）	134.99円/$	152.36円/$			148.62円/$	155.86円/$		

・想定よりも回復は力強く、円安の後押しもあり、売上高は計画比13.3%、営業利益は同25.3%と期初計画を大きく上回った

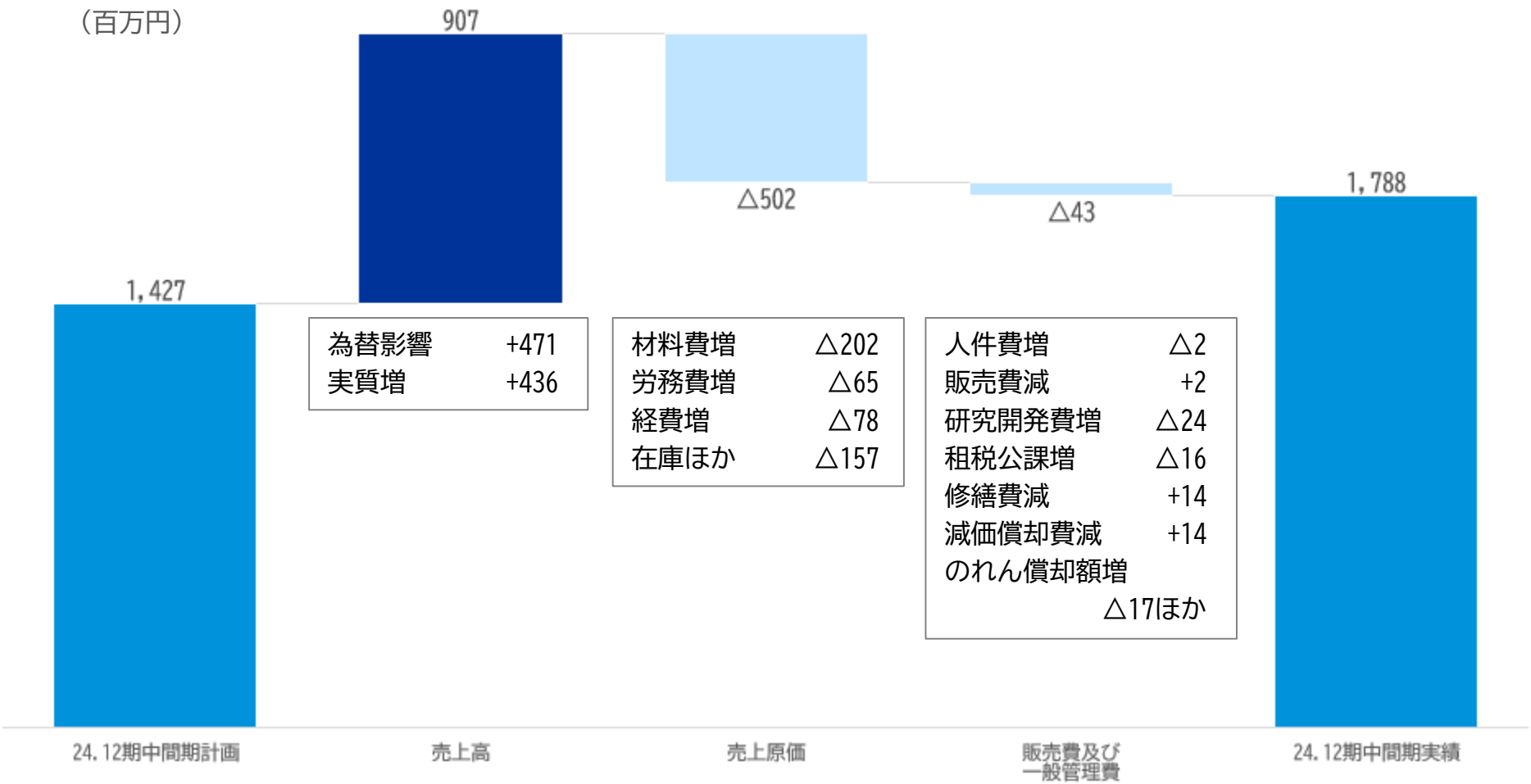
営業利益(中間期)の増減要因（前年同期比）

在庫減少が円安効果を相殺し、前年同期比6.1%増に留まる



営業利益(中間期)の増減要因（計画比）

期初時点より主力２事業の市場の回復傾向が鮮明となり、円安効果も利益増を後押し



貸借対照表／キャッシュ・フロー計算書の概要（中間期）

（単位：百万円）

貸借対照表	23.12期末	24.12期中間期末	増減額	主な増減内容
流動資産	16,735	18,345	+1,610	受取手形及び売掛金　+1,166 現金及び預金　+162
固定資産	8,237	9,274	+1,036	機械装置及び運搬具　+279　無形固定資産その他　+133 のれん　+325
資産合計	24,973	27,620	+2,647	
流動負債	2,522	3,155	+632	買掛金　+278　未払法人税等　+622 短期借入金　△162
固定負債	2,391	2,405	+14	リース債務　+134　繰延税金負債　+27 長期借入金　△156
負債合計	4,913	5,561	+647	
純資産合計	20,059	22,059	+1,999	利益剰余金　+1,251 為替換算調整勘定　+742
負債・純資産合計	24,973	27,620	+2,647	

キャッシュ・フロー計算書	23.12期中間期	24.12期中間期	24.12期中間期の主な内訳
営業キャッシュ・フロー	1,510	1,710	税金等調整前中間純利益　+2,753 減価償却費　+459　売上債権の増加　△1,131
投資キャッシュ・フロー	166	△311	定期預金の払戻による収入　+301　無形固定資産の取得による支出　△137 有形固定資産の取得による支出　△404
フリーキャッシュ・フロー	1,676	1,399	
財務キャッシュ・フロー	△1,044	△1,276	配当金の支払額　△539　長期借入金の返済による支出　△369
現金及び現金同等物の増減額	776	426	
現金及び現金同等物の中間期末残高	10,139	10,865	

2024年12月期業績の見通し

上期の上振れに加え、下期見通しを上方修正し、通期では21.6%の増収、45.7%の営業増益を予想

（単位：百万円）

＜為替感応度＞ 売上高80百万円/円 営業利益30百万円/円	2023年12月期 実績	2024年12月期（通期） 当初予想	修正予想	修正予想の前期実績比	
売上高	13,472	14,536	16,376	+2,904	+21.6%
リード端子事業	7,400	7,868	8,456	+1,055	+14.3%
光部品・デバイス事業	6,071	6,667	7,920	+1,848	+30.4%
営業利益	2,812	3,243	4,098	+1,286	+45.7%
営業利益率	*20.9%*	*22.3%*	*25.0%*	*+4.1pt*	—
リード端子事業	44	257	272	+228	+508.4%
光部品・デバイス事業	2,767	2,986	3,825	+1,058	+38.2%
経常利益	3,152	3,284	4,637	+1,484	+47.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,904	2,136	3,045	+1,141	+60.0%
１株当たり当期純利益（円）	*70.55	79.17	112.8		
為替レート（期中平均）	140.66円/$	140.00円/$	150.00円/$	※為替レート予想（150円）は下期の前提レートです	

*2024年４月１日付で普通株式１株につき３株の割合で株式分割を行っており、2023年12月期については当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

● 現時点の状況⇒修正のポイント

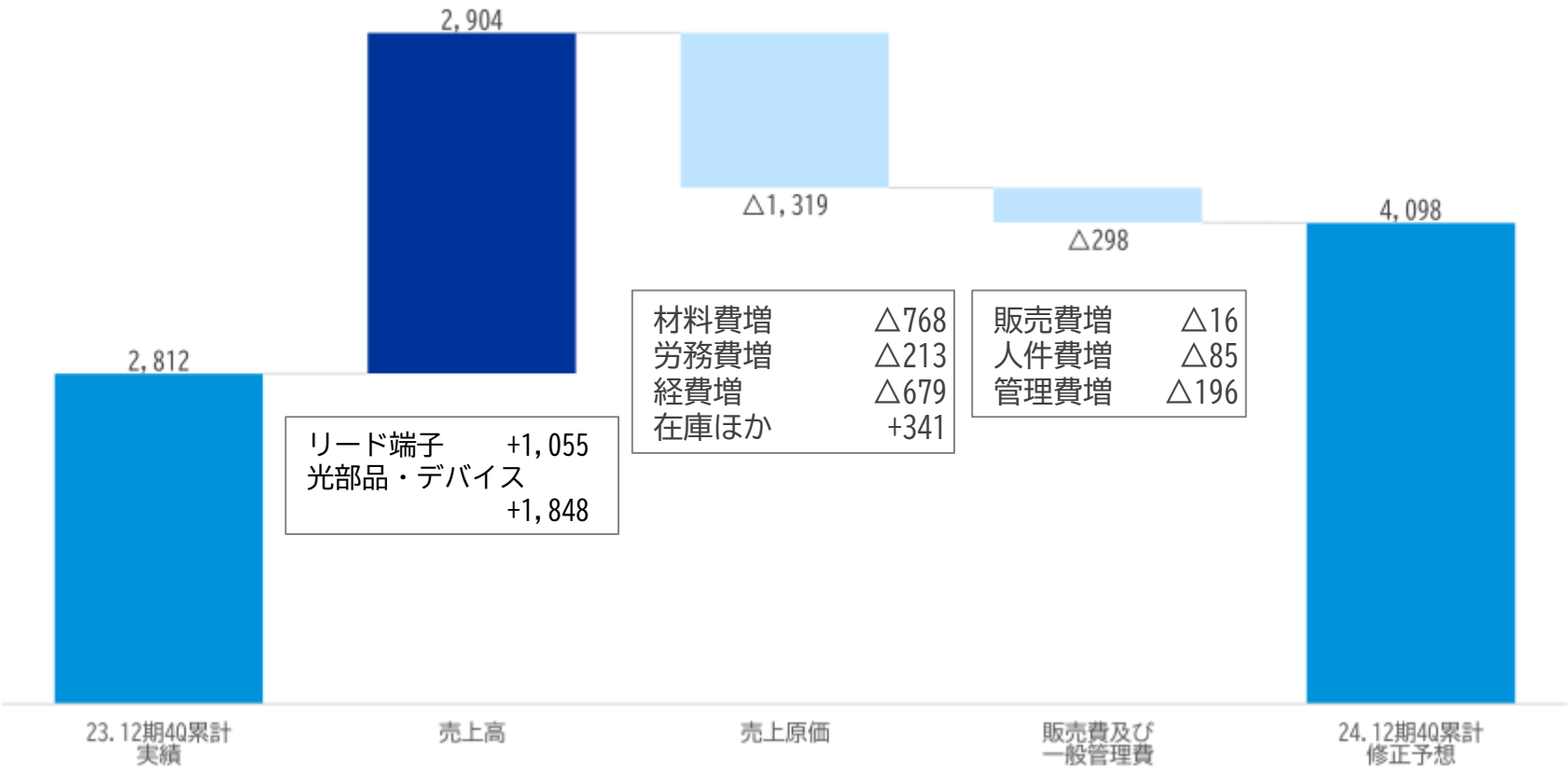
・リード端子事業：市場の回復は穏やかだが、期初の想定より少し良化。ハイブリッドコンデンサ向けなどに高機能リード端子の売上増を期待するが、マクロ動向により下期の大きな回復は見込めない状況

・光部品･デバイス事業：一部顧客から想定以上に受注が回復。売上は期初予想を上回る見通し

2024年12月期業績(営業利益)の見通し

2024年後半における光部品・デバイス事業の収益回復が貢献し、営業増益の見込み

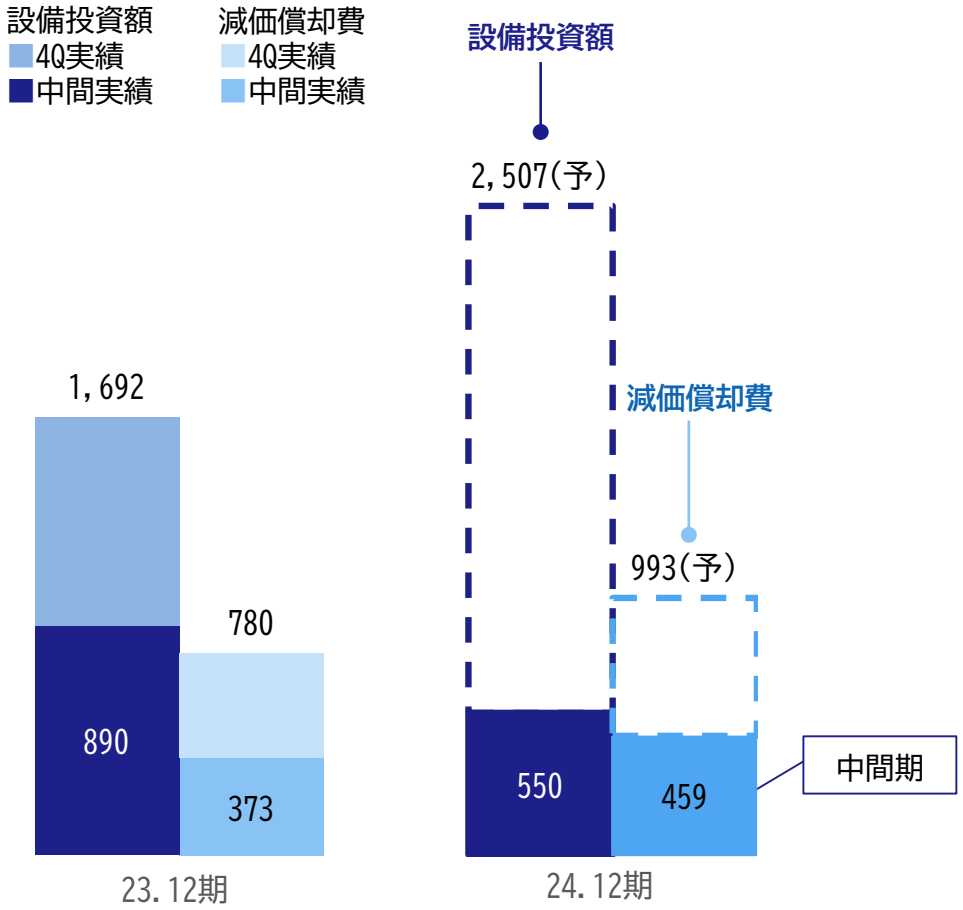
（百万円）



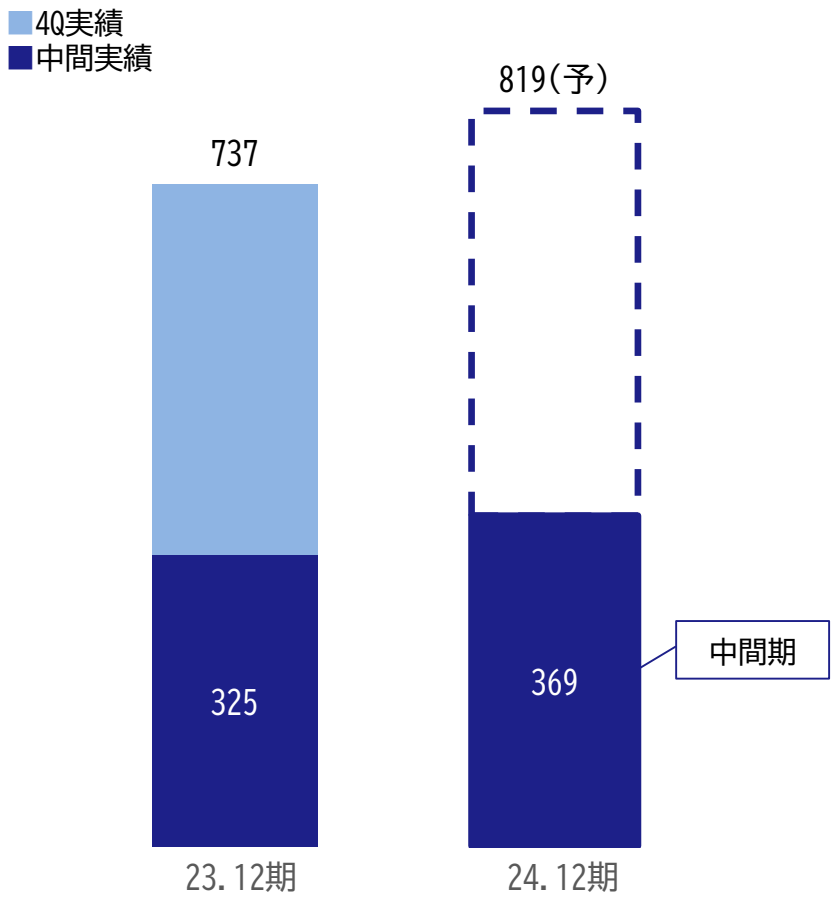
設備投資・減価償却・研究開発(中間期)

研究開発費はほぼ期初計画どおりの進捗
設備投資は、光部品・デバイス事業の投資計画から後ズレし、期初計画より少なめの進捗

設備投資・減価償却費（百万円）



研究開発費（百万円）



Ⅱ．2024年12月期中間期
セグメント別の状況

セグメント別業績(中間期) - リード端子

2Q（4－6月）の営業利益率は1Qに対して大きく改善、中間期の業績は、売上利益とも計画比プラス

（百万円）

	2023年12月期	2024年12月期			2024年12月期			
	中間期（1月-6月）	中間期（1月-6月）	対前年同期増減	前年同期比	1Q（1月-3月）	2Q（4月-6月）	対直前四半期増減	直前四半期比
売上高	3,789	4,086	+297	+7.8%	1,929	2,157	+228	+11.8%
営業利益	157	119	△38	△24.3%	△13	132	+146	―
営業利益率	*4.2%*	*2.9%*	*△1.2pt*	―	*△0.7%*	*6.2%*	*+6.9pt*	―

2024年12月期（中間期）の概況

● 調整局面からプラス成長に転じ、受注は回復傾向

- 市場全体としては、3月までに底打ちしたが地域・用途によりメーカーごとのバラツキあり。車載市場向けでは夏以降の各社の増産体制構築に備えハイブリッドコンデンサ向けの受注が回復傾向
- 情報通信機器市場向けは調整が続いたが、企業におけるIT需要の拡大等によりプラス成長への転換の兆しがみられた

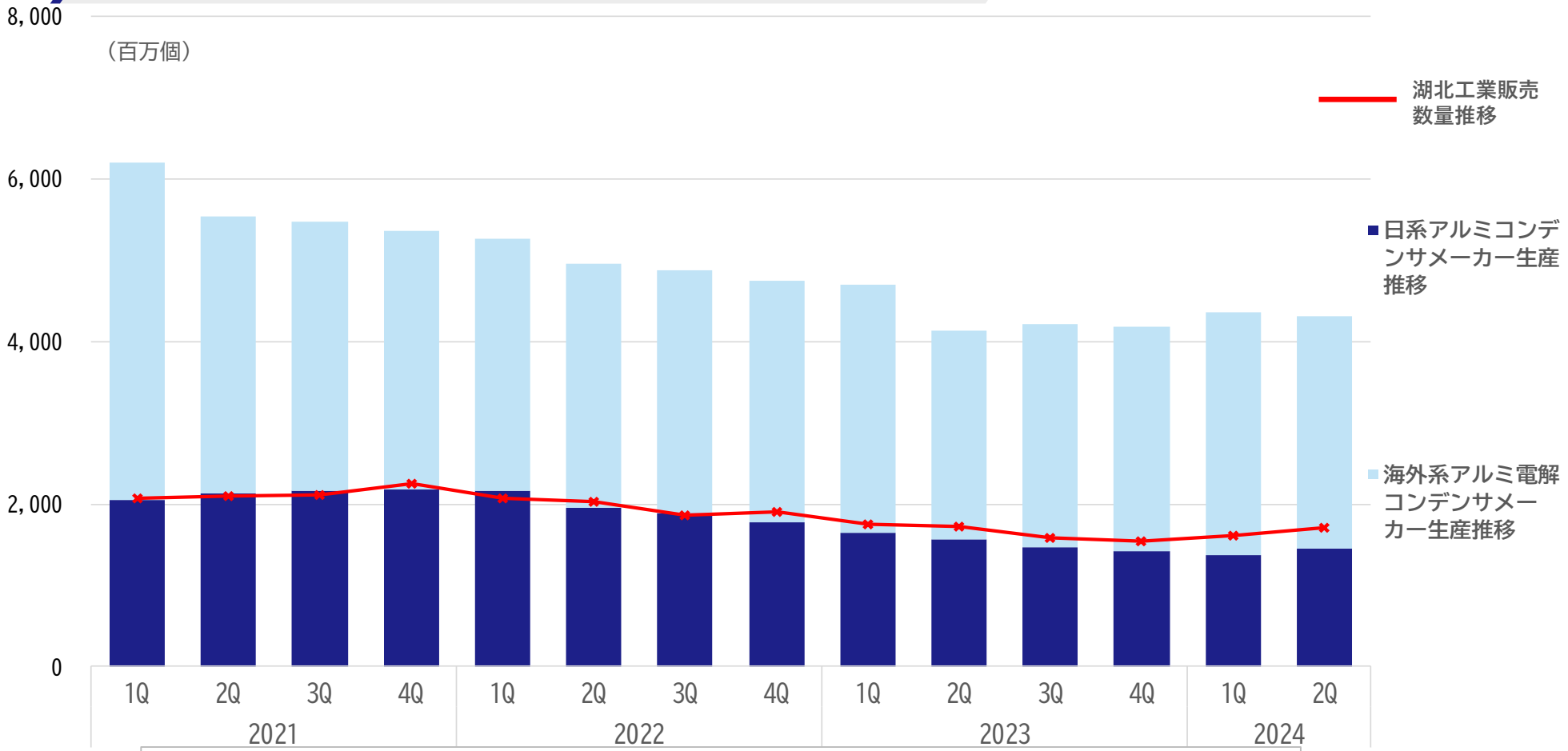
● 当社の状況と収益改善への取り組み

- 受注の増加に合わせたフレキシブルな生産体制の構築を進める
- 受発注業務の最適化など効率改善への取り組みを継続

2024年12月期(中間)の事業環境

市場は底入れしたが、弱い回復が続く

小型アルミ電解コンデンサのグローバルマーケットと当社の販売数量推移

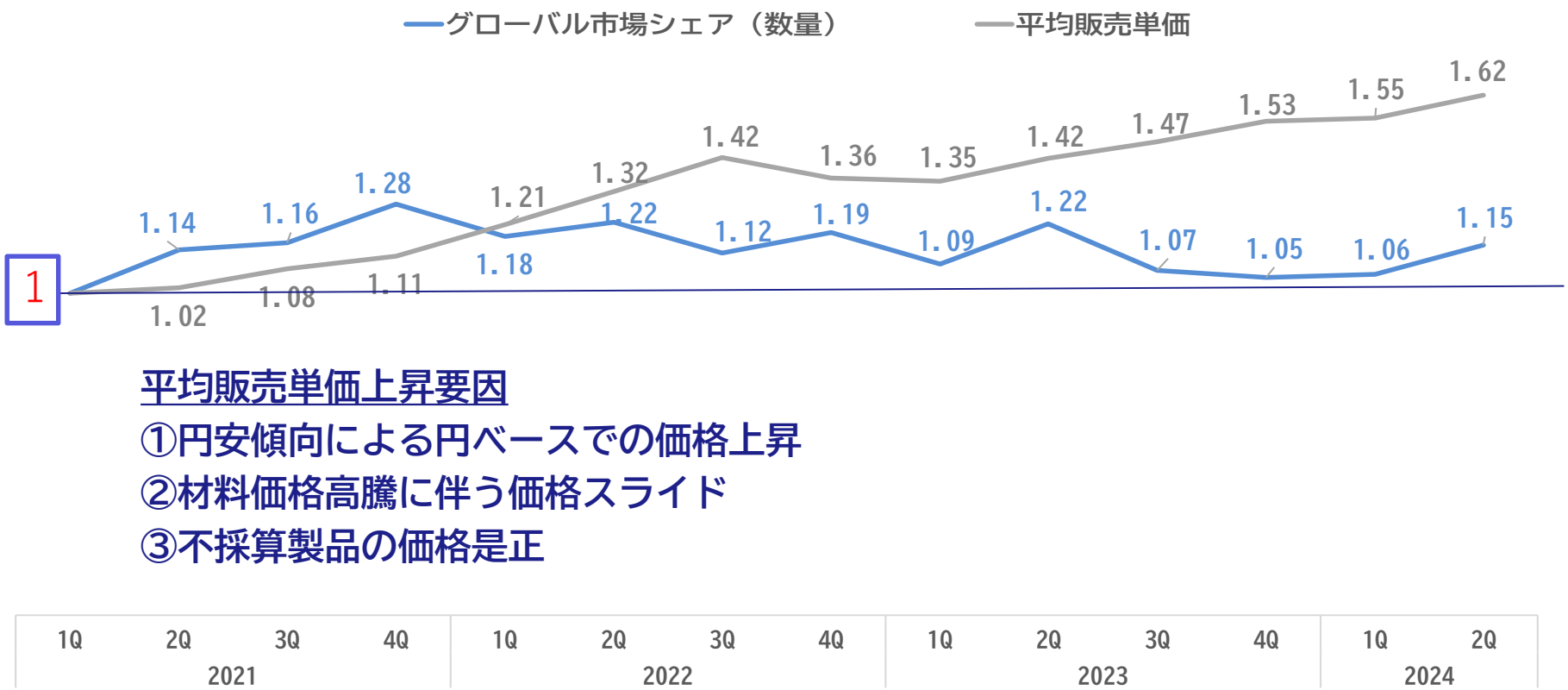


※リード端子はコンデンサ1個あたり2個使用の為、コンデンサ数量に換算して表示
※アルミ電解コンデンサ生産数量は各四半期ごとの最終月の実績、リード端子販売数量は四半期における月平均（当社推定）

販売単価と市場シェアの動向

平均販売単価は上昇、市場シェアは変化なし

平均販売単価と市場シェア（数量ベース）の推移　（2021年1Qを1とした推移）



平均販売単価上昇要因

①円安傾向による円ベースでの価格上昇

②材料価格高騰に伴う価格スライド

③不採算製品の価格是正

グローバルシェアは、当社推定値

リード端子事業の見通し

通期の見通しを売上高・利益ともに上方修正

セグメント業績

（百万円）

	2023年12月期	2024年12月期（通期）			
	実績	当初予想	修正予想	修正予想の前期実績比	
売上高	7,400	7,868	8,456	+1,055	+14.3%
営業利益	44	257	272	+228	+508.4%
営業利益率	*0.6%*	3.3%	*3.2%*	*+2.6pt*	—

2024年12月期中間期の状況及び現時点での見通し

- 期初計画に対して売上は若干上振れだが、市場の回復力は弱い状況が継続
- 下期の収益面では、マレーシア工場、中国東莞工場での生産能力増強や、ドルベースでの材料調達コスト上昇に伴う一時的な負担増により、期初想定より厳しい状況

セグメント別業績(中間期) - 光部品・デバイス

前期下半期から受注が大きく回復し、利益率も改善傾向

(百万円)

	2023年12月期 中間期 (1月-6月)	2024年12月期 中間期 (1月-6月)	対前年同期増減	前年同期比	2024年12月期 1Q (1月-3月)	2Q (4月-6月)	対直前四半期増減	直前四半期比
売上高	3,234	3,621	+386	+12.0%	1,484	2,136	+652	+43.9%
営業利益	1,528	1,669	+140	+9.2%	649	1,020	+370	+57.1%
営業利益率	*47.3%*	*46.1%*	*△1.2pt*	—	*43.7%*	*47.7%*	*+4.0pt*	—

2024年12月期(中間期)の概況

● 業界・市場動向

- 海底ケーブルプロジェクトの延期等の影響による調整が一巡
- 光デバイス製品では、世界的な通信インフラの中長期的な強化の流れを背景としたプロジェクトが発表される等、先行き見通しが改善

● 外部環境の変化とその対応

- 海底ケーブル市場の多芯化ニーズに対応し、小型・複合製品、マルチコアファイバ用製品の開発が進捗
- マルチコアファイバ用製品では、光アイソレータ機能を内蔵したファンイン／ファンアウト製品を開発
- 高純度石英ガラス製品事業については、半導体製造関連メーカーでのサンプル引き合いが増加

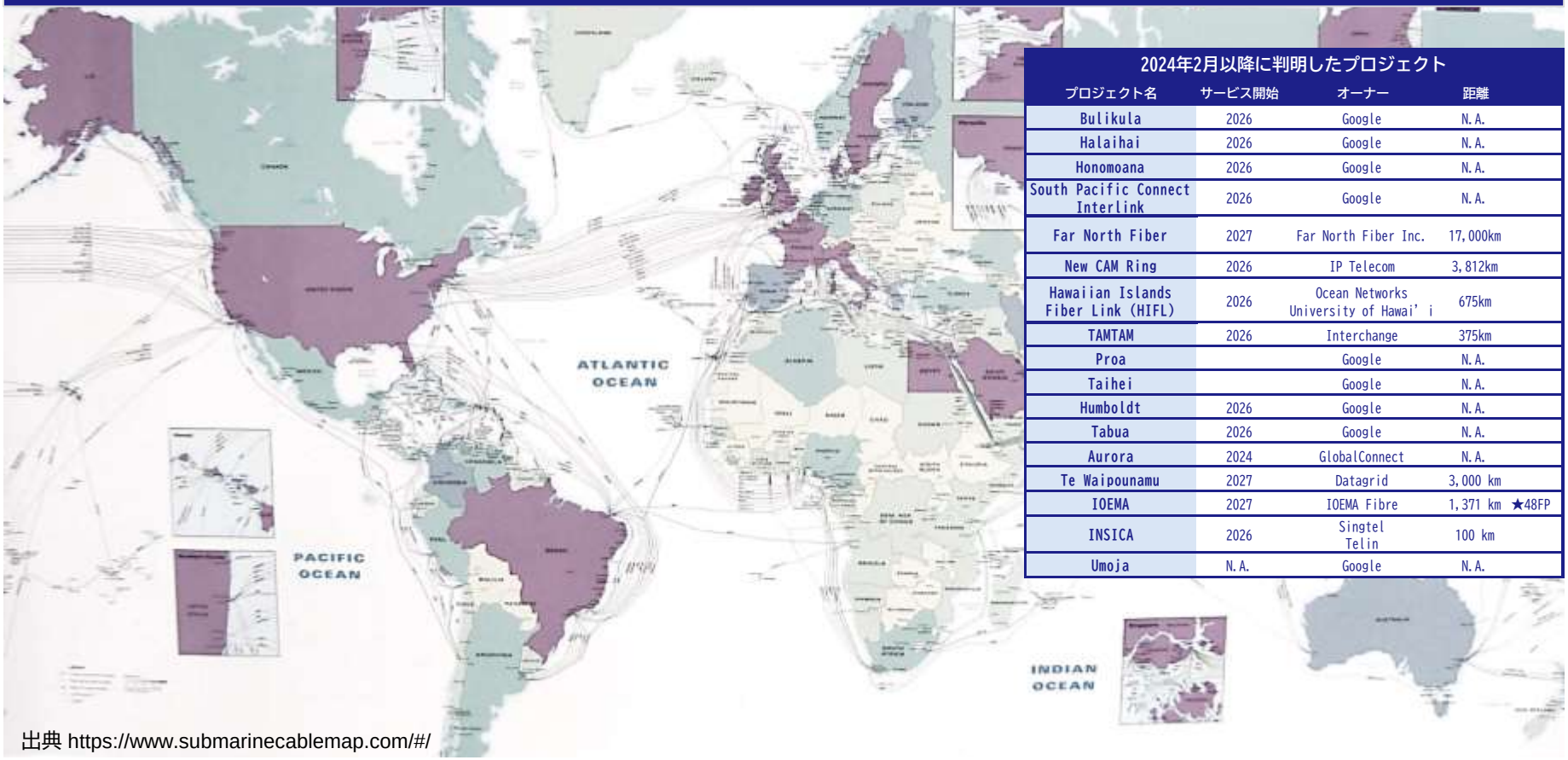
2024年以降も新規敷設が続く海底ケーブルネットワーク

通信キャリア、GAFAMに加え、データセンターからのプロジェクトが今後増加の見通し

＊図中の各線が海底ケーブル

長距離海底ケーブルシステムの全体図

2024年7月現在



出典 https://www.submarinecablemap.com/#/

2024年2月以降に判明したプロジェクト

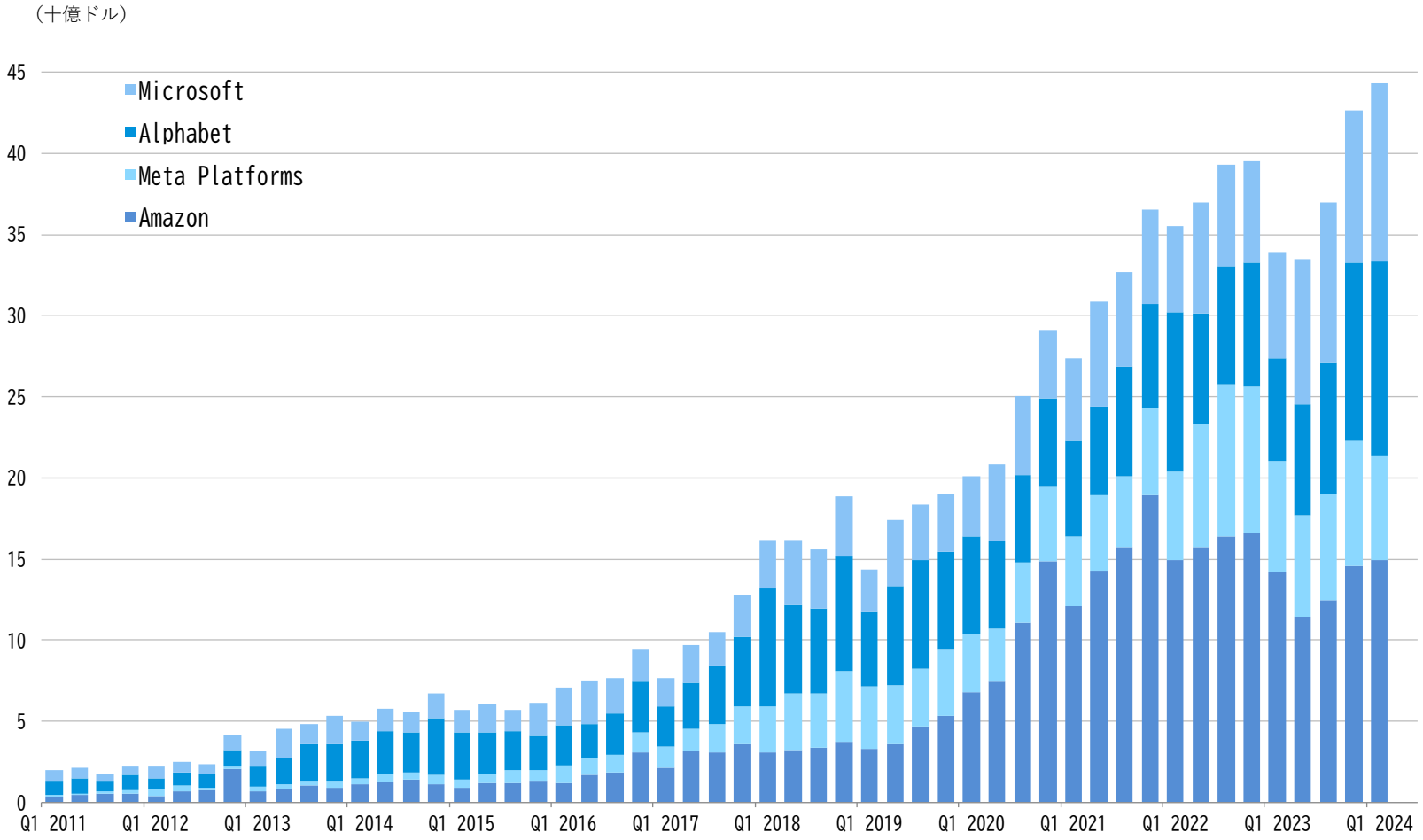
プロジェクト名	サービス開始	オーナー	距離
Bulikula	2026	Google	N.A.
Halaihai	2026	Google	N.A.
Honomoana	2026	Google	N.A.
South Pacific Connect Interlink	2026	Google	N.A.
Far North Fiber	2027	Far North Fiber Inc.	17,000km
New CAM Ring	2026	IP Telecom	3,812km
Hawaiian Islands Fiber Link (HIFL)	2026	Ocean Networks University of Hawai' i	675km
TAMTAM	2026	Interchange	375km
Proa		Google	N.A.
Taihei		Google	N.A.
Humboldt	2026	Google	N.A.
Tabua	2026	Google	N.A.
Aurora	2024	GlobalConnect	N.A.
Te Waipounamu	2027	Datagrid	3,000 km
IOEMA	2027	IOEMA Fibre	1,371 km ★48FP
INSICA	2026	Singtel Telin	100 km
Umoja	N.A.	Google	N.A.

※出所）TeleGeography 「Submarine Cable Map」　※プロジェクトの更新情報は公表データから推定したものです。

2024年12月期(中間期)の事業環境

米国クラウド事業者の設備投資再開

米国クラウド事業者の設備投資



(出所：会社資料)

光部品・デバイス事業の見通し

海底ケーブルプロジェクトが活況を呈し、売上、利益共に期初計画比プラス、営業利益率も改善

（百万円）

	2023年12月期	2024年12月期（計画）			
	実績	当初予想	修正予想	通期修正予想の前期実績比	
売上高	6,071	6,667	7,920	+1,848	+30.4%
営業利益	2,767	2,986	3,825	+1,058	+38.2%
営業利益率	*45.6%*	*44.8%*	*48.3%*	*+2.7pt*	—

2024年12月期中間期の状況及び現時点での見通し

- 中間実績は期初計画に対して売上高が上振れ、第3四半期も順調な出だし
- 光アイソレータに加え、光フィルタの受注も好調に推移

株主還元の推移

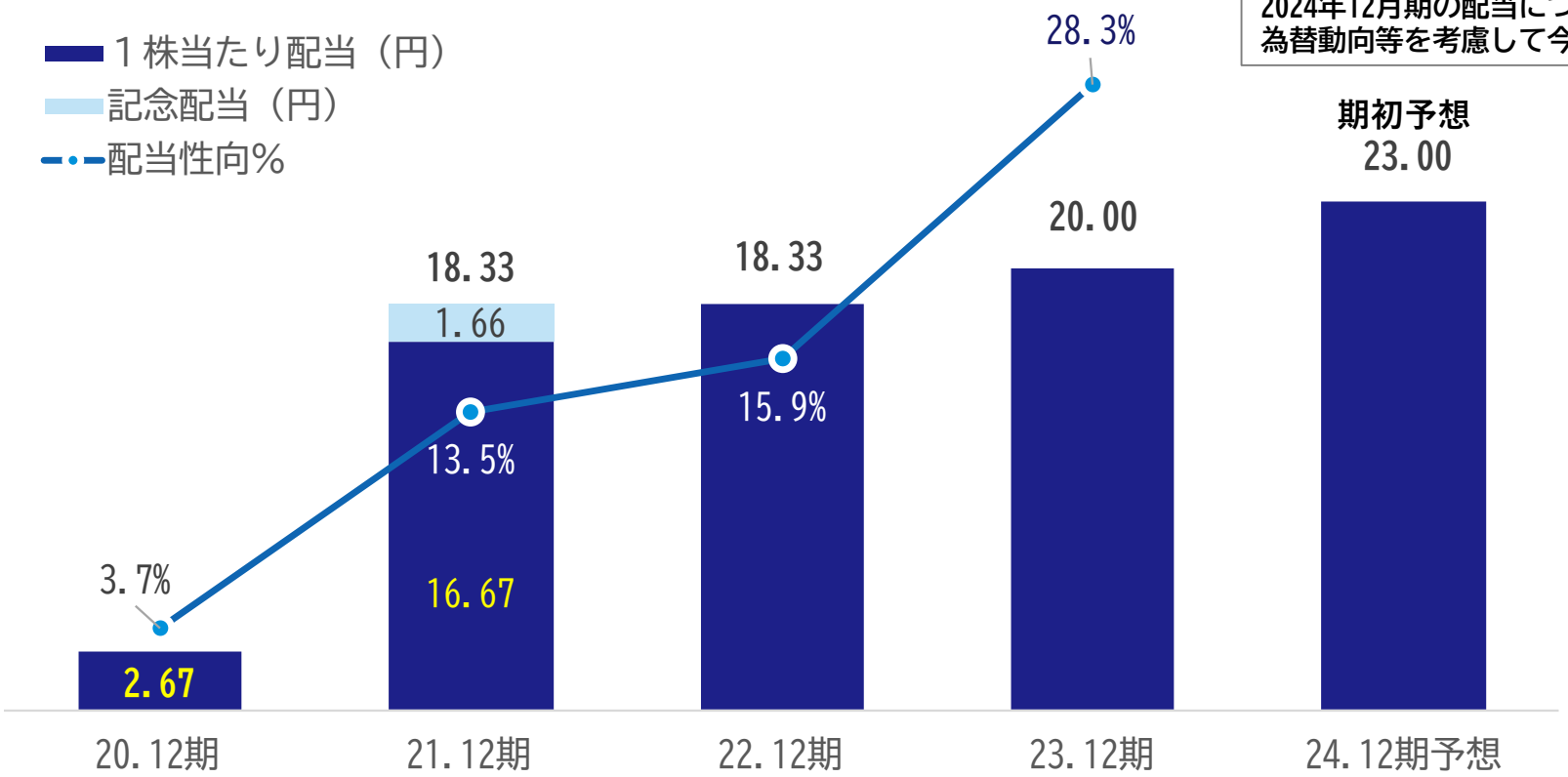
＜株主還元方針＞

・持続的な成長に向け、設備投資・研究開発投資・M&Aなどに積極的に資金を投入するとともに、当面、一定程度の内部留保も行ない財務体質の強化をはかる

・株主還元については中長期的に「連結配当性向目標30%、DOE3%以上」とし、株主還元の充実をはかる

配当金／配当性向の推移

2024年12月期の配当については、為替動向等を考慮して今後検討



※2023年12月期以前の配当については、2024年4月の株式分割後の金額に換算しています

Ⅲ. トピックス

＜第３の柱＞高純度石英ガラス「SSG®」事業の進捗状況

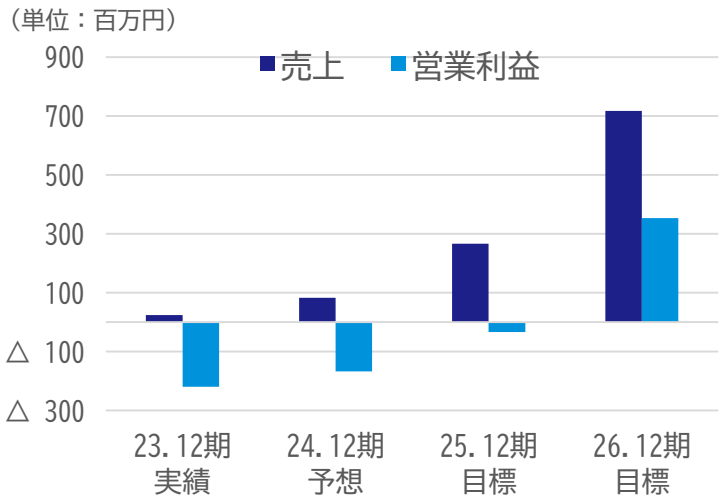
半導体関連市場をメインターゲットとし、量産採用に向けて評価が進む

＜SSG®試作サンプルの評価状況＞

- ✓ 半導体関連メーカからの引き合いが増加、半導体関連装置の高機能化、省エネルギー化への貢献に期待
- ✓ レーザー分野での評価も進行
- ✓ 医療機器など半導体以外の分野にも拡販予定

24’12/11～12/13　SEMICON Japan 2024に出展予定

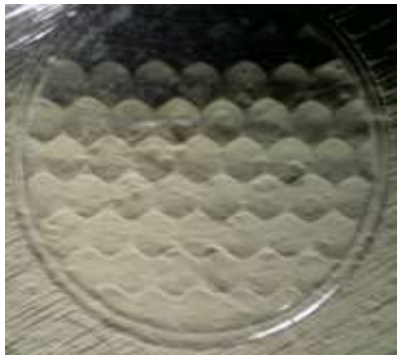
高純度石英ガラス事業の中期計画



「半導体関連装置向けにサンプル出荷増」

＜SSG®を用いて製作した石英部品の事例＞

半導体製造装置用大型成型品



微細レンズ

ガラスプリフォーム

ガラスノズル

M&A、資本参加による、成長事業・次世代事業の強化

次世代の成長に資する、要素技術の獲得を進めています

1.　エピフォトニクス株式会社の株式の取得（子会社化）（本社：神奈川県、研究拠点：米国）

EpiPhotonics
PLZT（強誘電体）薄膜形成技術

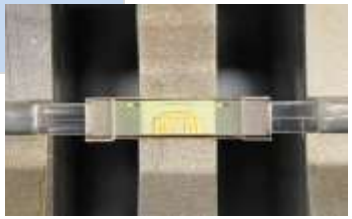
×

KOHOKU
光デバイスの結晶育成技術

買収目的：次世代情報通信インフラに向けた製品ラインアップの強化

＜会社概要＞
・2007年12月設立
・事業内容：超高速スイッチ、波長選択スイッチ、光変調器などの研究開発、製造販売、開発受託

＜保有技術＞
- PLZT光スイッチ
- PLZT光変調器
- 波長スイッチ



PLZT光変調器チップ

2.　ARIEL Photonics Assembly Limited（イスラエル）への出資決定（外為法による審査中）

全株式の14.61%を４５７万ドル（約７億円）で取得

ARIEL
レーザーモジュール等開発技術

×

KOHOKU
特殊光ファイバ・高信頼デバイス技術

資本出資目的：宇宙通信等新分野の模索、次世代溶接技術の開発

＜会社概要＞
・2007年11月設立
・事業内容：電子及び電気工学システムの開発、製造及びサービス

＜保有技術＞
- レーザー、光センサほか光素子制御技術
- 駆動回路設計技術
- レーザー制御用ソフトウェア技術
- モジュール／サブシステム設計技術

次世代溶接システム試作機

サステナビリティ

サステナビリティ委員会発足、各ワーキンググループでの活動を開始

テーマ		委員会活動状況	実施事項と成果	今後の活動
E	環境	・事業部門ごとのサブWGを設置 ・WGミーティング開催（2回）	・本社、海外各工場における現時点の活動内容、現地での規制内容等の整理と共有	・全グループサステナビリティ委員会開催　年2回 ・各WG、サブWGについては月1回程度開催予定
S	社会	・WGミーティング開催（2回）	・本社、各工場における活動内容整理	
G	ガバナンス	・WGミーティング開催（2回）	・取締役の実効性評価、社内規程の整備に着手	

＜活動事例：環境＞

本社工場で、再生可能エネルギー化100％達成

本社・本社工場

	2023年		2024年8月以降
非再生可能エネルギー	63%	→	0%
再生可能エネルギー	31%		94%
太陽光発電	6%		6%
バイオマス発電	0%		1％以内

東莞工場

	2023年		2024年8月以降
非再生可能エネルギー	100%	→	92%
太陽光発電	0%		8%

本社工場

バイオマス発電所
（いぶきグリーンエナジー(株)様）

東莞工場　太陽光発電

＜活動事例：その他の社会貢献＞

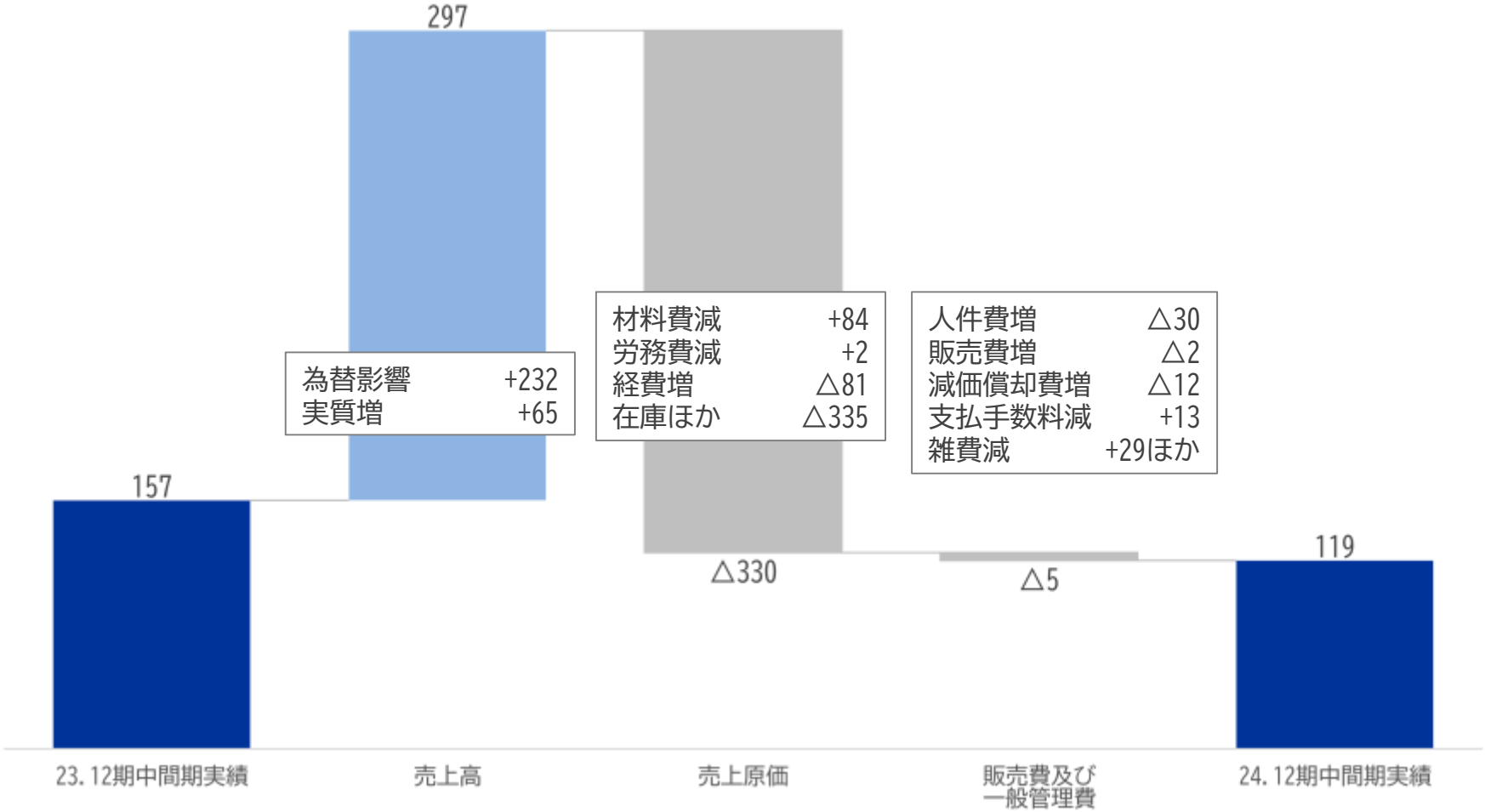
時期	テーマ	内容
2020年～継続実施	自然環境保護	「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」活動への寄付
2025年9月～10月	地域コミュニティ貢献	「2025わたSHIGA輝く国スポ・障スポ大会」協賛
2024年8月	地域コミュニティ貢献	「第3回おとのかけはしコンサート」協賛

Ⅳ. 参考資料

セグメント別
営業利益(中間期)の増減要因(前年同期比) - リード端子

在庫減少の影響が大きく前年同期比24.3%の減益

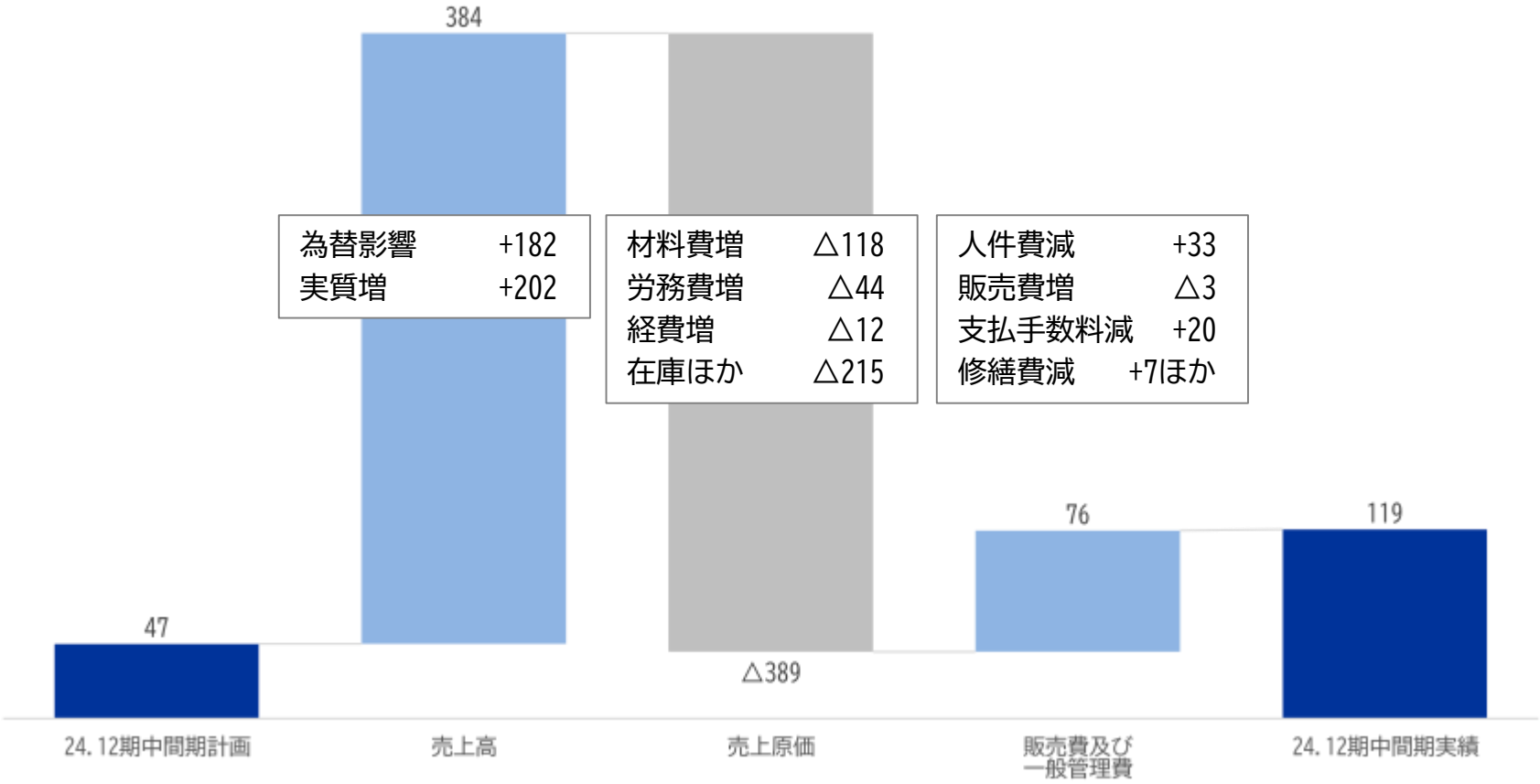
(百万円)



セグメント別
営業利益(中間期)の増減要因（計画比）－ リード端子

売上が増加したが、在庫減少、固定費増により、計画比では小幅増益

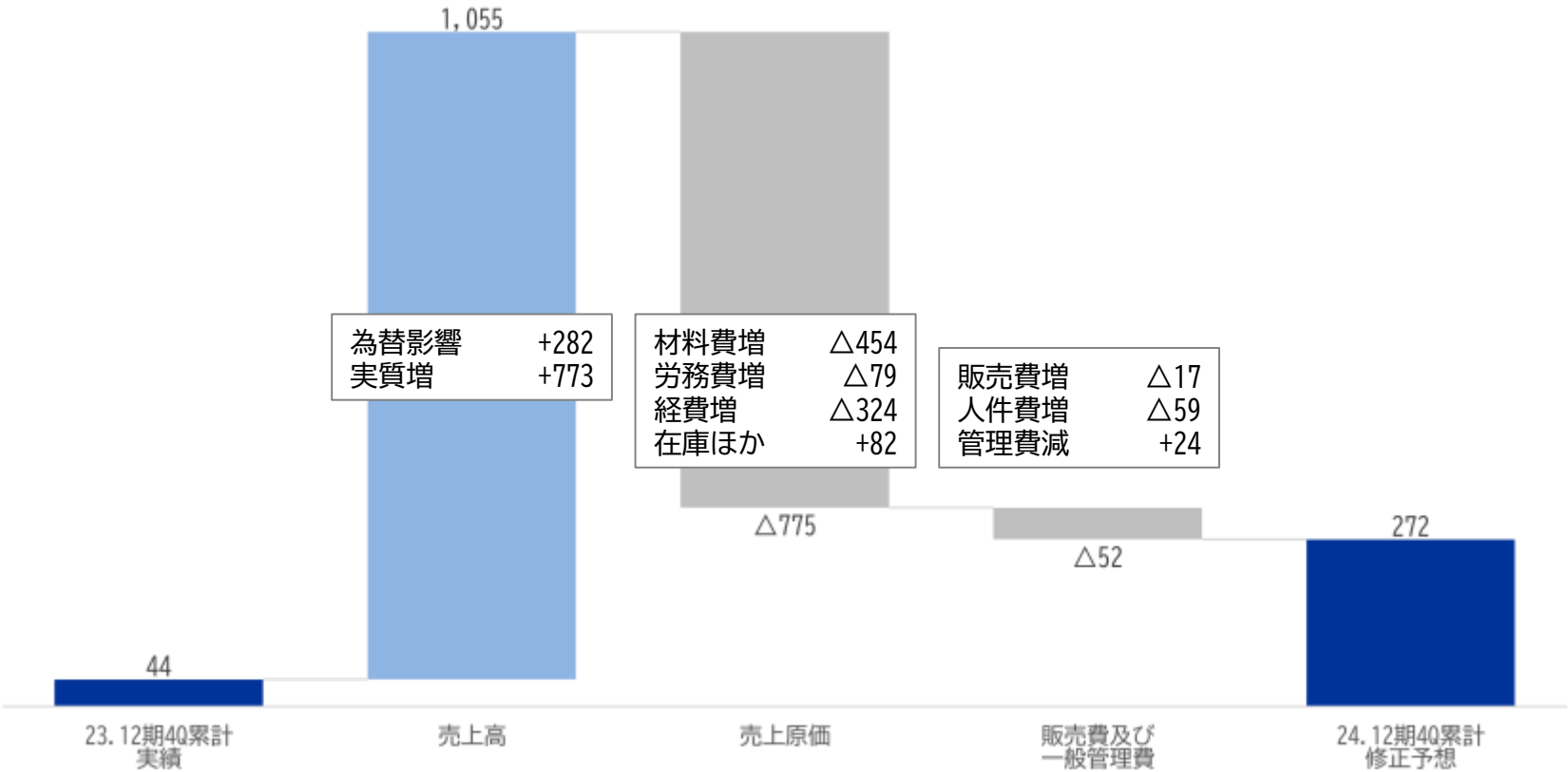
（百万円）



セグメント別営業利益の増減要因（予想）- リード端子

人件費上昇、円安による材料費アップ等により、増益幅は売上増加に比較して小幅に留まる見通し

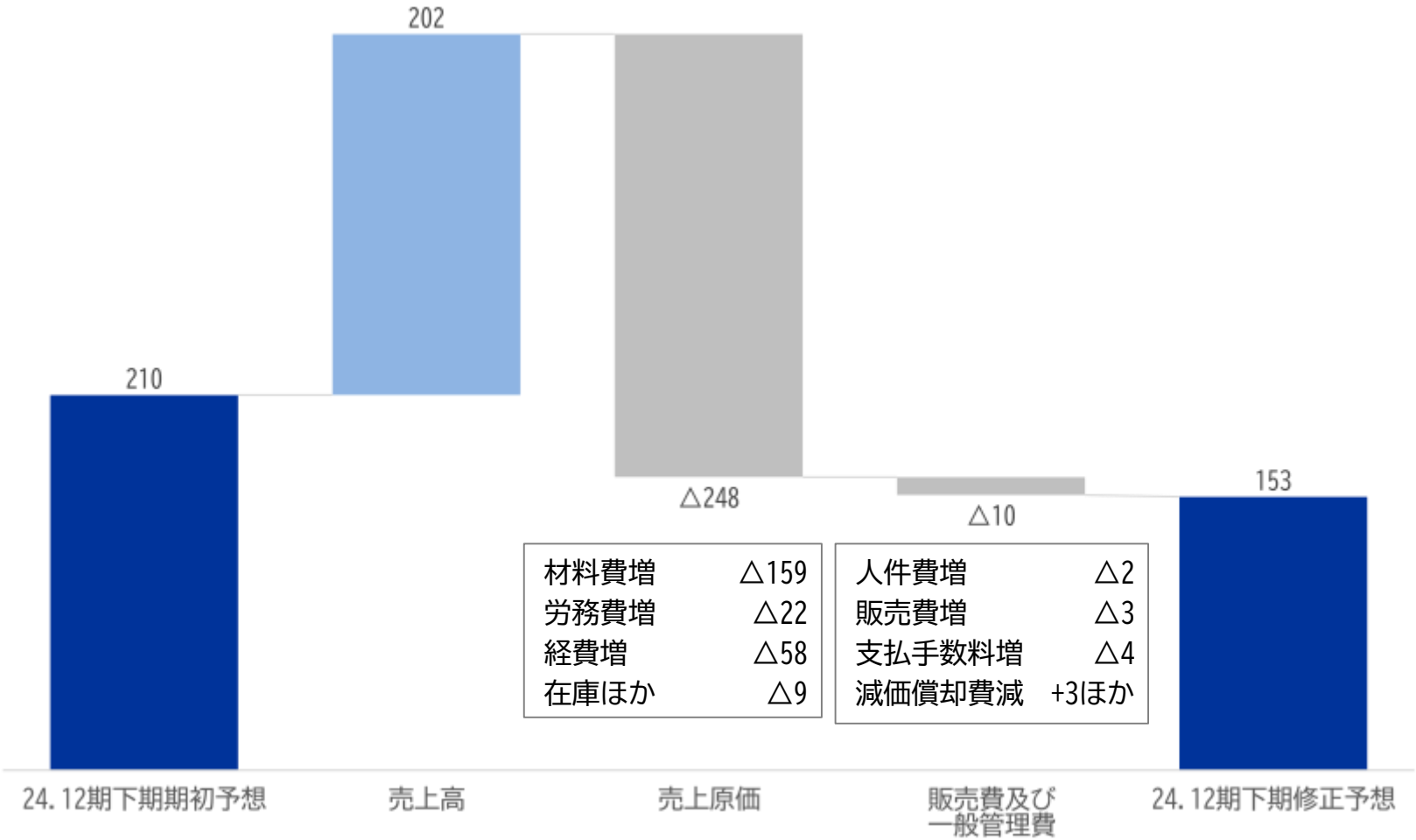
（単位：百万円）



下期当初予想 vs 修正予想　リード端子

売上は数量ベースでは当初予想比微減、海外工場増強に伴う一時コストも考慮

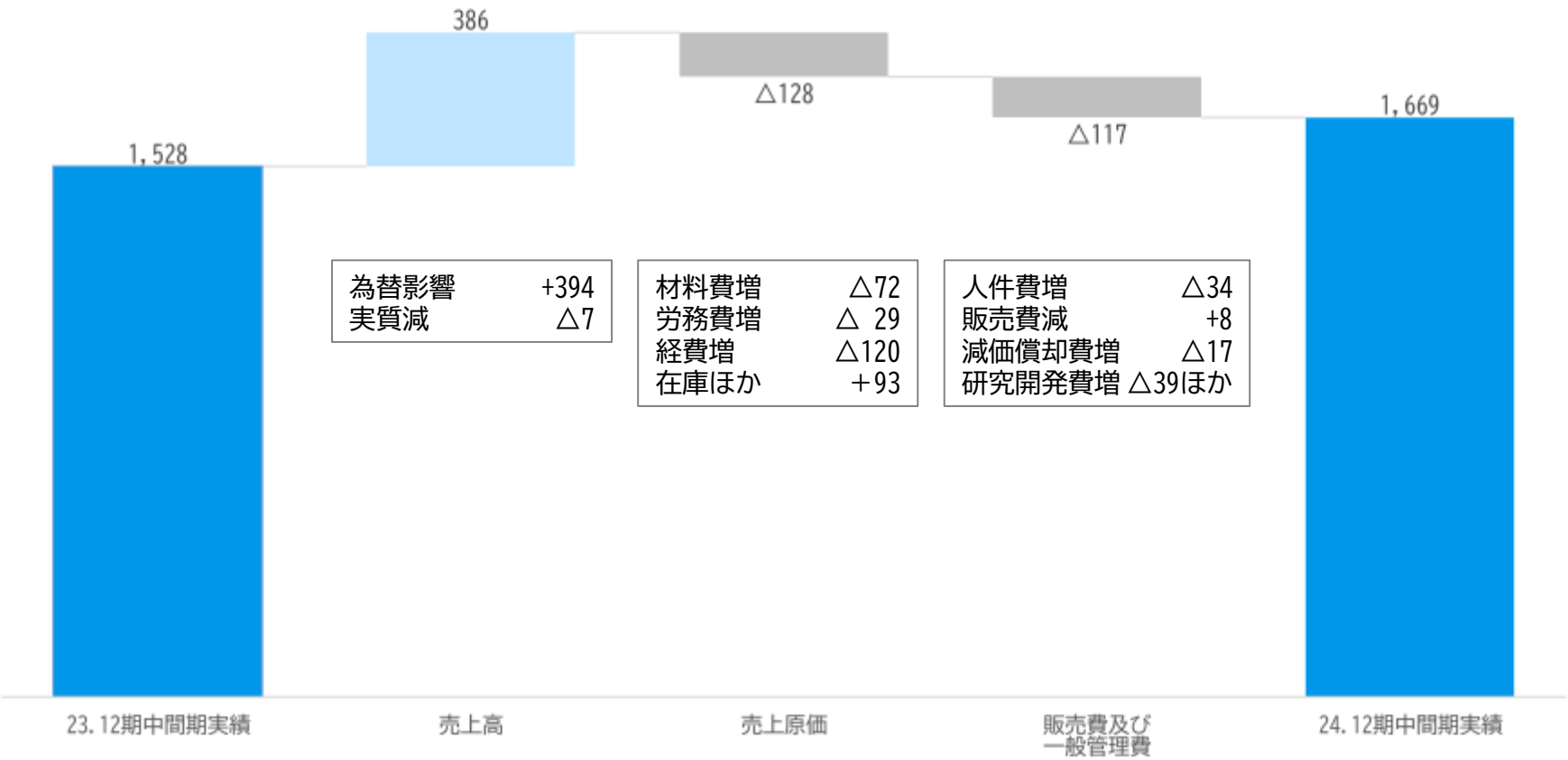
（百万円）



セグメント別
営業利益(中間期)の増減要因(前年同期比) - 光部品・デバイス

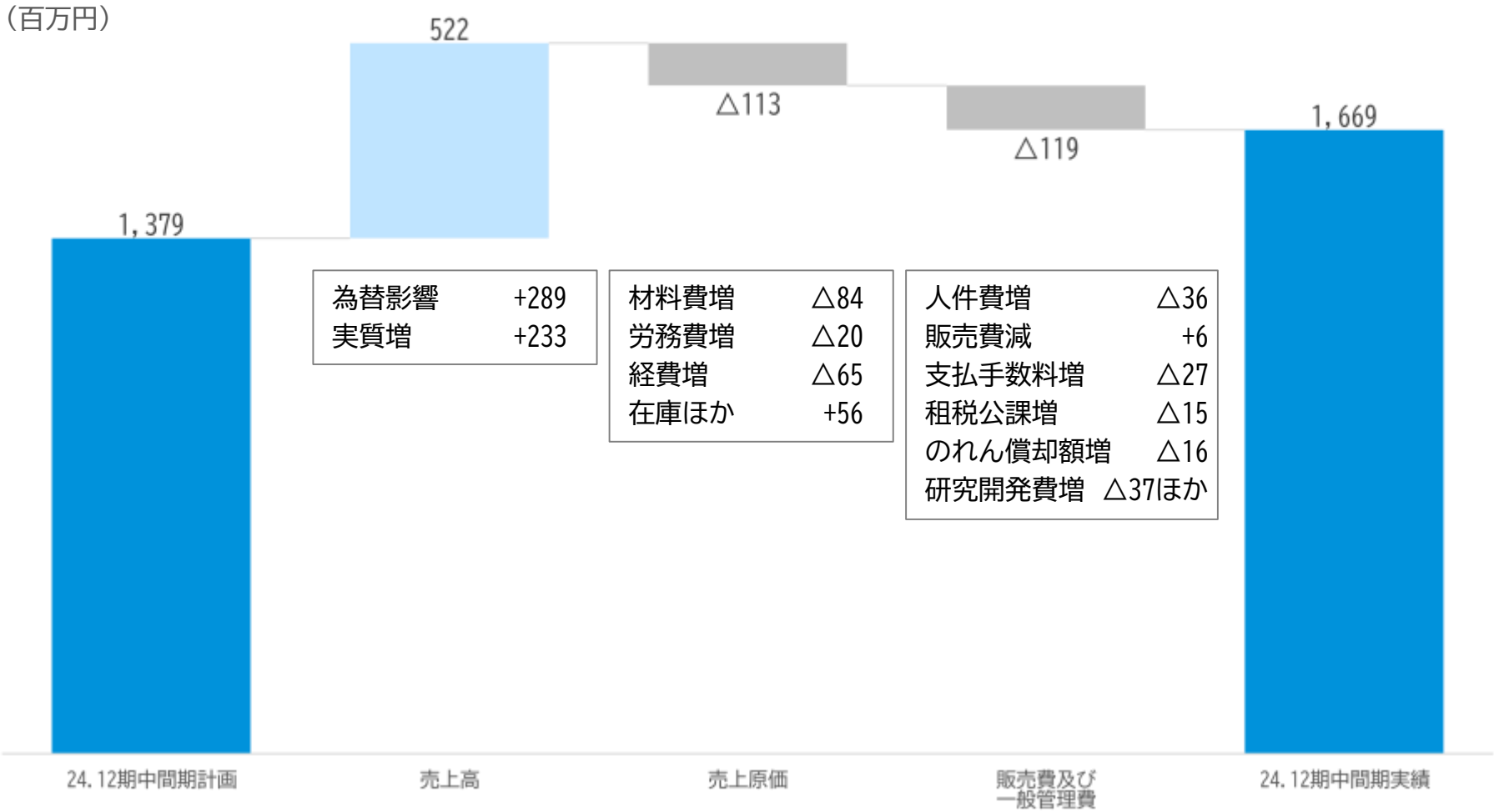
円安効果が寄与し、前年同期比9.2%の増益

(百万円)



セグメント別
営業利益(中間期)の増減要因(計画比) - 光部品・デバイス

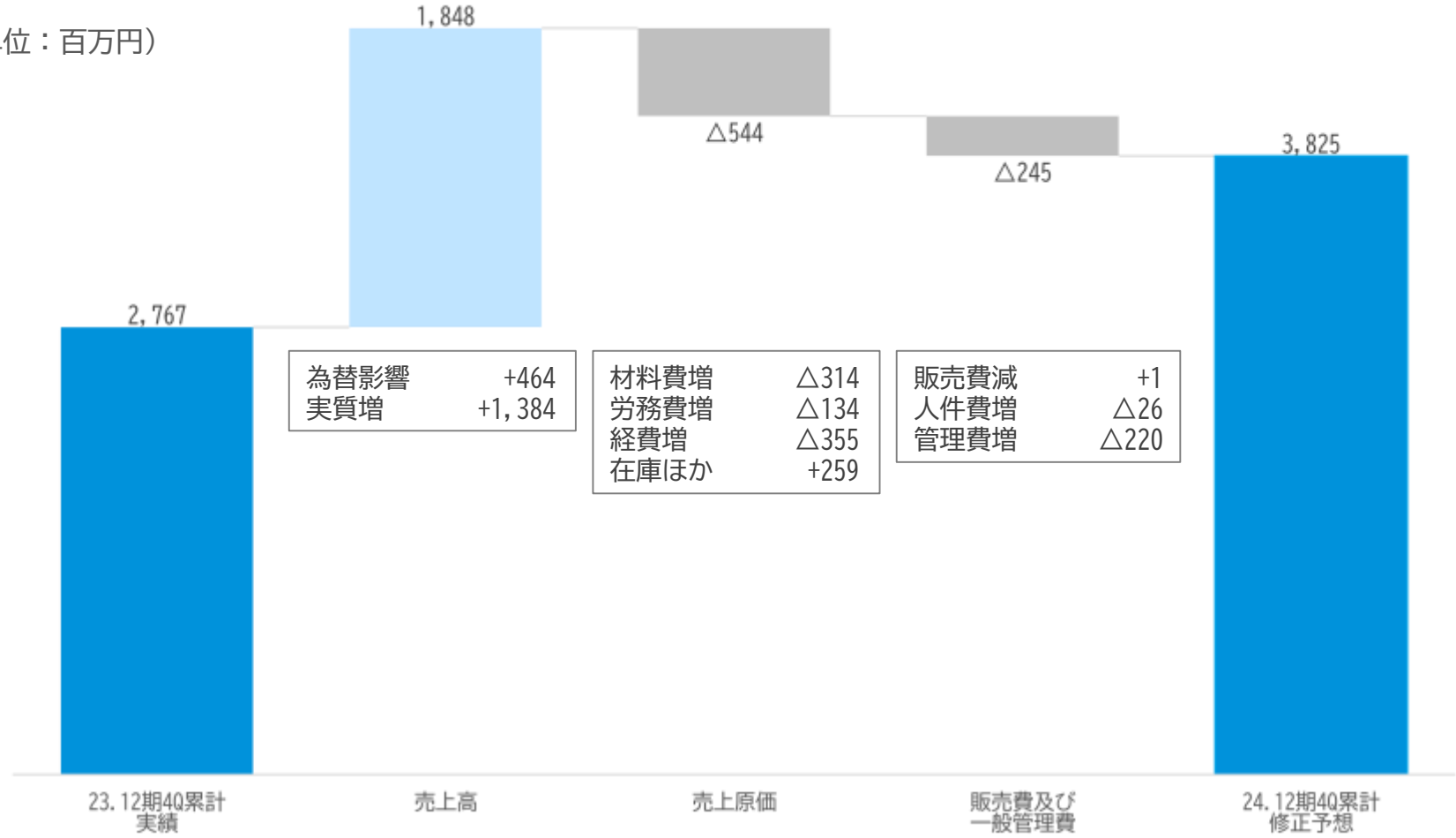
売上が計画以上に回復し、利益も計画を上回った



セグメント別営業利益の増減要因（予想）－ 光部品・デバイス

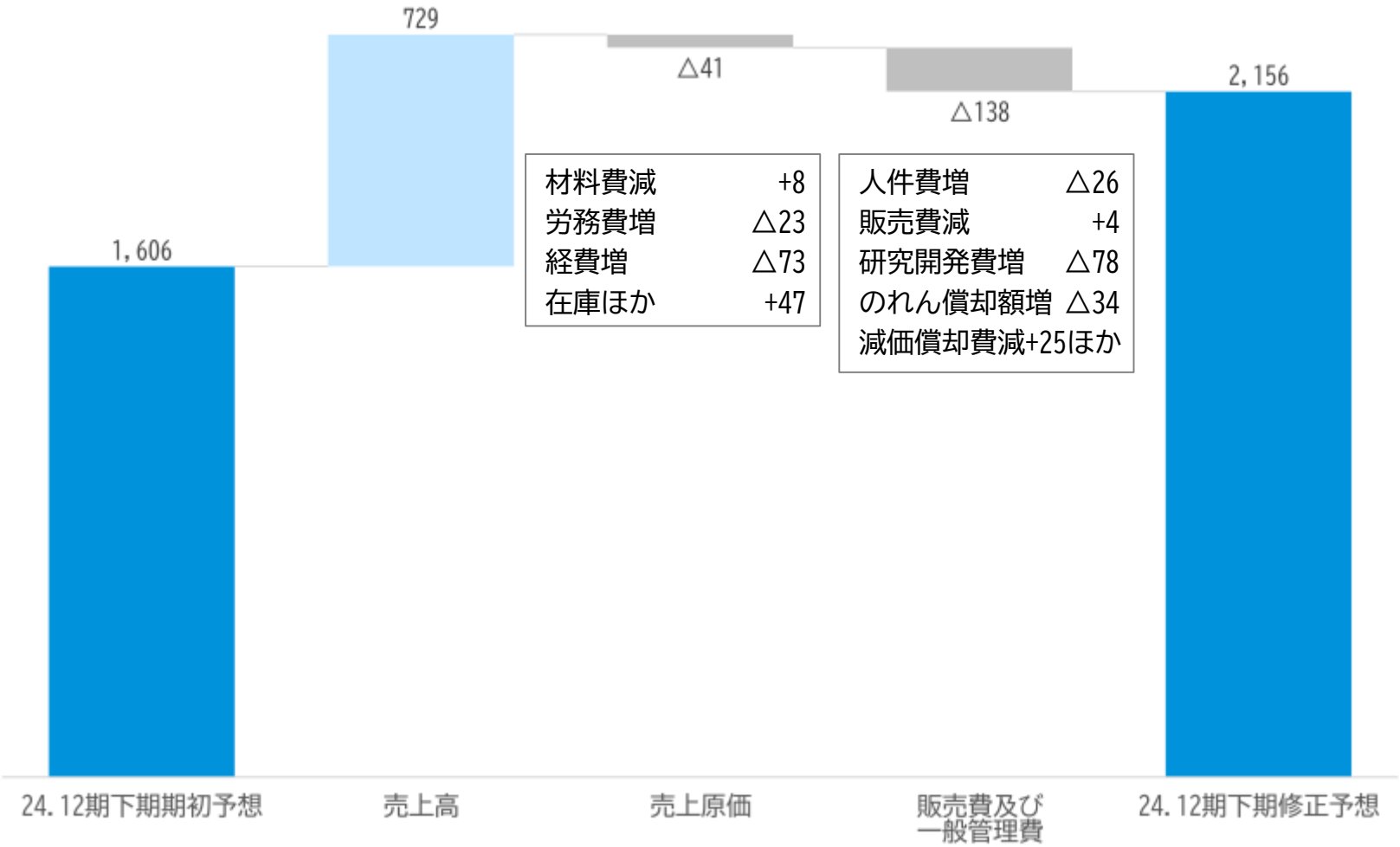
売上回復に伴い、大幅増益を見込む

（単位：百万円）



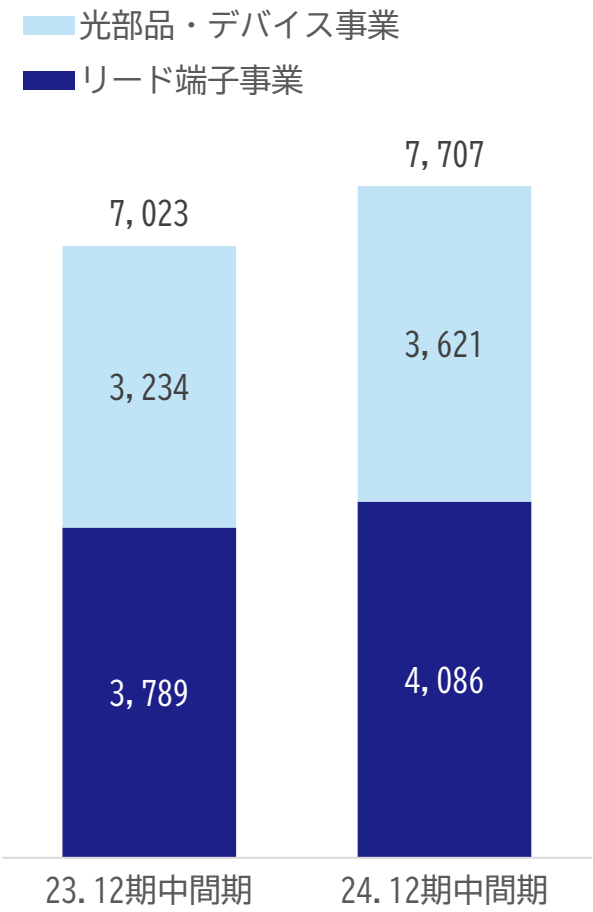
下期当初予想 vs 修正予想　光部品・デバイス

海底ケーブル向け需要好調、営業利益を上方修正

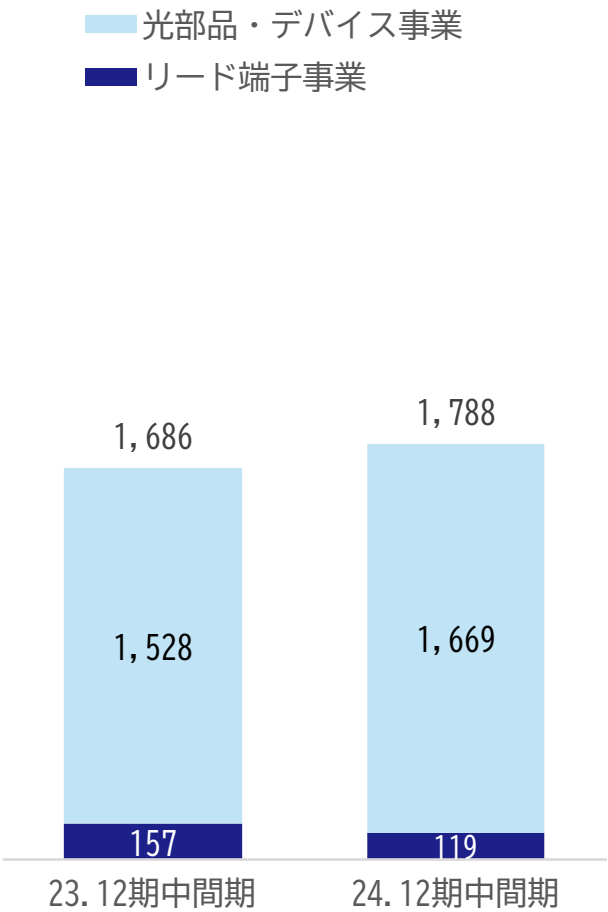


セグメント別業績及び国内外売上高比率（中間期）

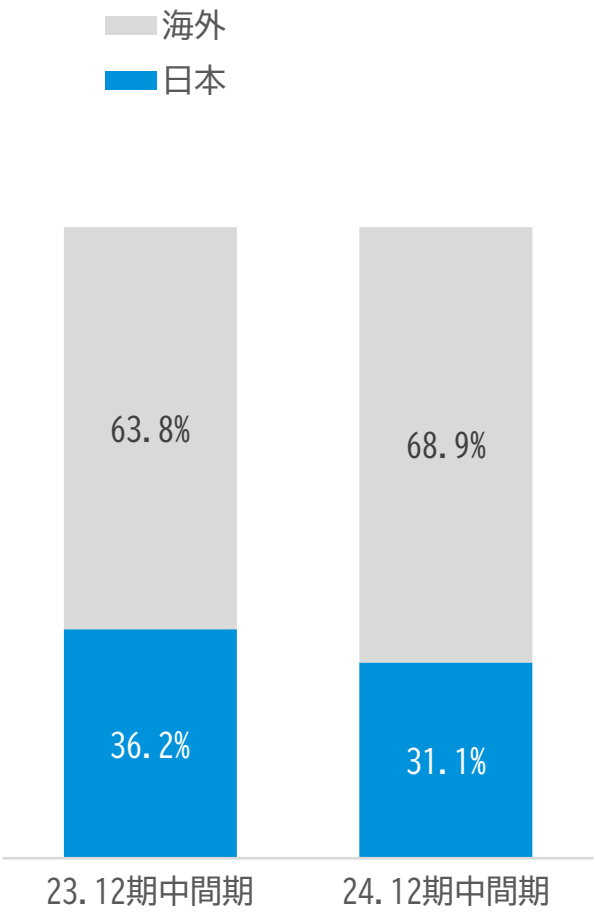
売上高　（百万円）



営業利益（百万円）



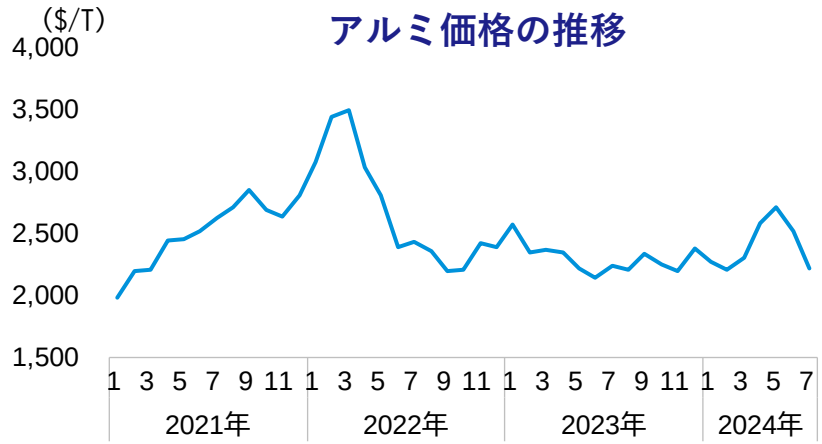
国内外売上高比率（%）

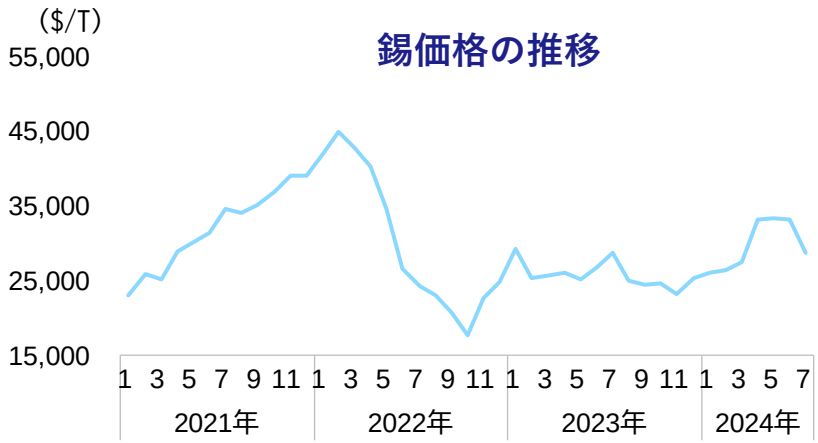


外部環境 － 非鉄金属相場の動向

非鉄金属の市場価格は2022年下落トレンドから反転、その後、銅・錫・アルミは一進一退

非鉄金属相場（LME）の推移

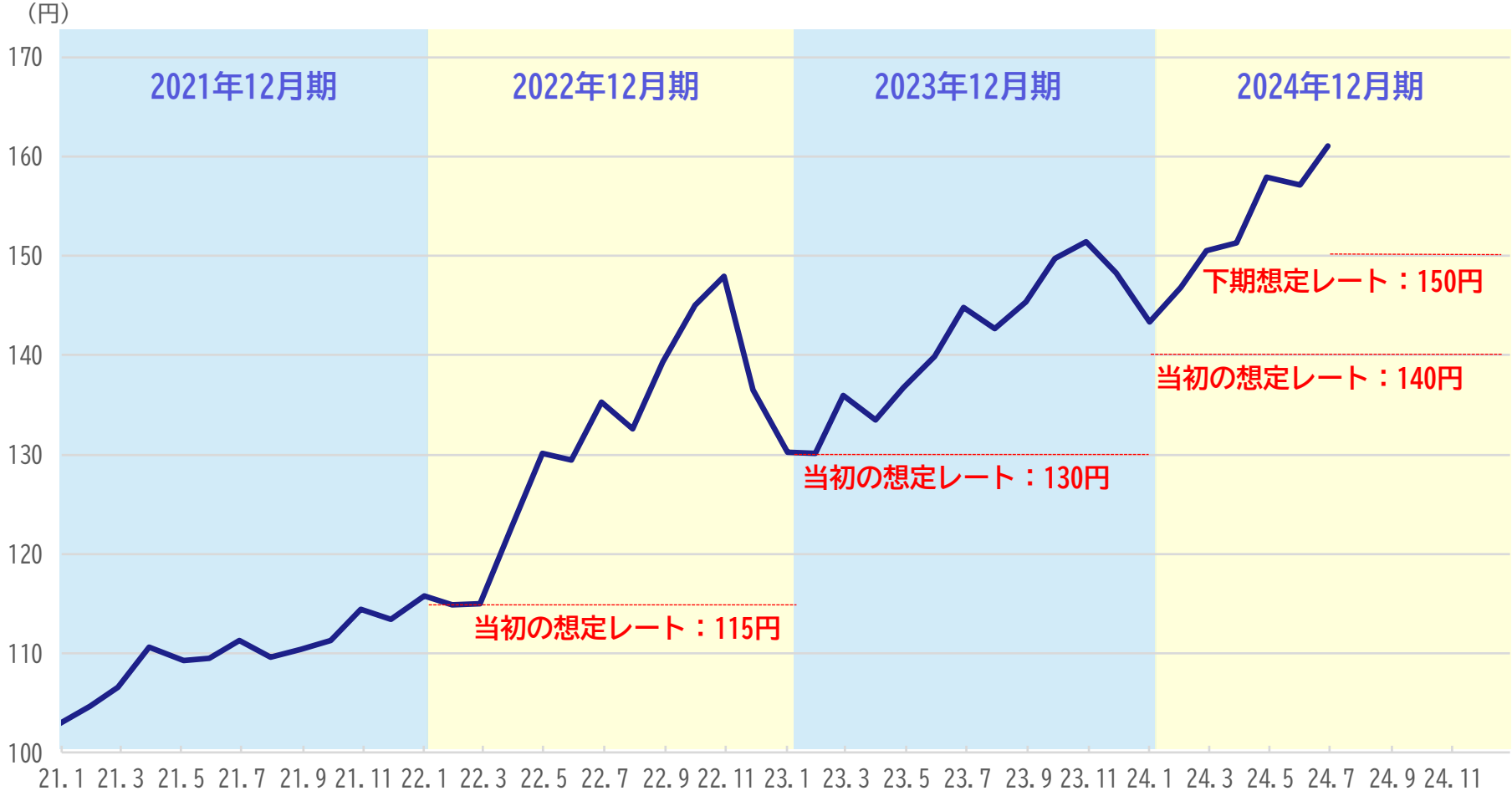




2024年12月期(中間期)の事業環境

1-6月の期中平均レートは、152.36円/USDとなり、想定為替レートより円安で推移

USD/JPYトレンドグラフ



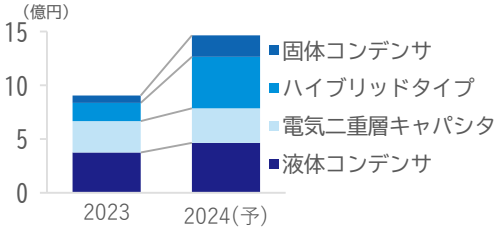
2024年12月期当初想定vs現在の状況比較 – リード端子

1. お客様、市場調査会社等からの情報に基づく当社の認識

	2024/12期予想（当初コメント）	2024/12期中間期の状況	2024/12期3Q以降の見通し
(1) アルミ電解コンデンサ市場全体（主に日系顧客の状況）	➢ 在庫調整は春までに終了し、その後回復の見通し	➢ 在庫調整は、ほぼ終了し受注は反転、市場は底を打ったが回復力は弱い	➢ 産機全体、車載、ICTの一部で在庫調整が続き、当面回復力は弱い状況が継続と予測
(2) 用途別の動向	➢ 自動車市場、期初時点で在庫調整はほぼ終了。春以降の回復を見込む	➢ 自動車関連は、品質問題の影響を受けたが、電動化やADAS等の高機能化により回復傾向	➢ 徐々に回復すると期待するが、一部在庫調整や景気要因により大きな回復は難しい
	➢ 自動車用はハイブリッドコンデンサ向けリード端子の売上は前年比3倍を見込む	➢ ハイブリッドコンデンサの生産は一部のコンデンサメーカで増加すると共に中国ローカルメーカーも生産開始	➢ 日系・非日系顧客共に増産だが顧客によりバラツキあり
	➢ ICT市場、生成AI市場の牽引などにより、年後半、回復に向かう見通し	➢ 情報通信市場が想定より早めの回復	➢ 情報通信機器市場向けは生成AIの普及などを背景に堅調に推移すると予想
	➢ その他情報通信機器、民生市場向けは在庫調整からの回復を見込むが、需要は低迷が続く予想	➢ 在庫調整は終了、情報通信機器向けなどが回復傾向	➢ 情報通信機器市場の回復継続を期待するが、マクロ要因により本格回復は期待できない

2024年12月期当初想定vs現在の状況比較 – リード端子

2. 当社の経営環境

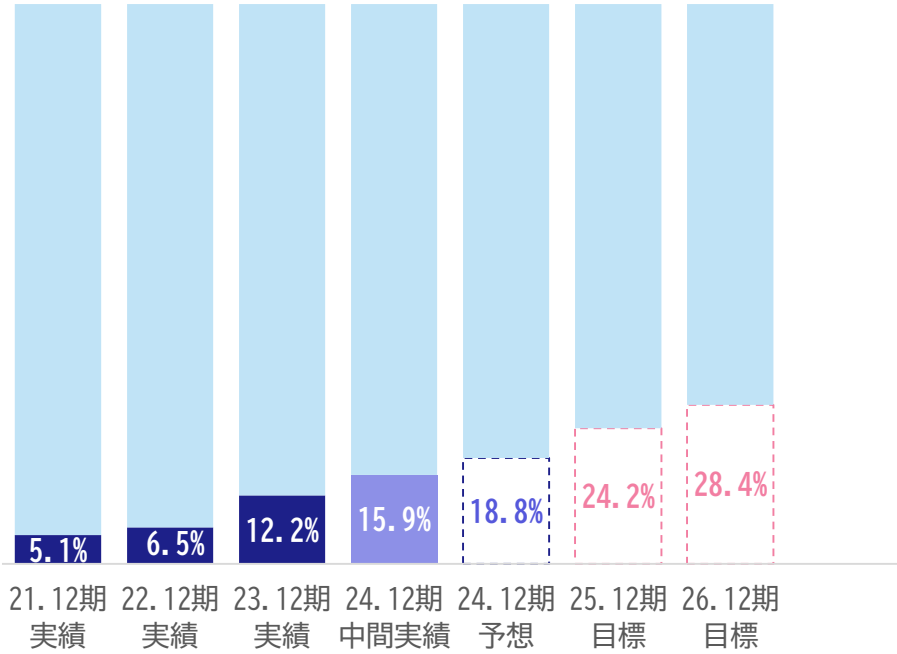
	2024/12期予想（当初コメント）	2024/12期中間期の状況	2024/12期3Q以降の見通し
(1) 成長分野	➢ 高機能コンデンサ向けリード端子の売上予想  	➢ EDLC向け売上は大幅増加。中国スマートメータ、車載ブレーキシステム向けなどに採用拡大 ➢ 車載市場向けはグローバルで取り組み強化	➢ EDLCは、車載・スマートメーター向けに引き続きグローバルで増加 ➢ 日系顧客等のグローバル生産に対応
(2) 生産	➢ 蘇州、東莞、マレーシア各拠点での生産効率改善による収益力強化、品質改善を進める ➢ OEE 85%目標	➢ コンデンサの高機能化に対応し、標準品の機能改善 ➢ 蘇州工場の立ち上げロスにより第１四半期に発生した在庫と受注のミスマッチによる悪影響は第２四半期に挽回 ➢ 6月時点OEE各拠点平均80%	➢ 本社工場の少量生産品種を海外工場に集約、まとめ生産へ ➢ 東莞工場での生産体制を増強。25年に向けて収益体制強化に取り組む ➢ 生産設備の進化により今期中に85%目標達成を目指す
(3) 技術	➢ OEE 85%目標 ➢ レーザー溶接製品サンプル出荷開始 	➢ 継続開発中 Ariel社との共同開発により、レーザー溶接の溶接強度と形状を現行の溶接に対して大幅に改善 ➢ 上記開発に合わせてプレス工程も含めたシステム設計を開始	➢ 量産用レーザー溶接機の開発・テスト ➢ 2024年度中にサンプル出荷目標

市場開拓による事業規模の拡大

新商品の売上比率の改善、自動車市場向け販売を強化

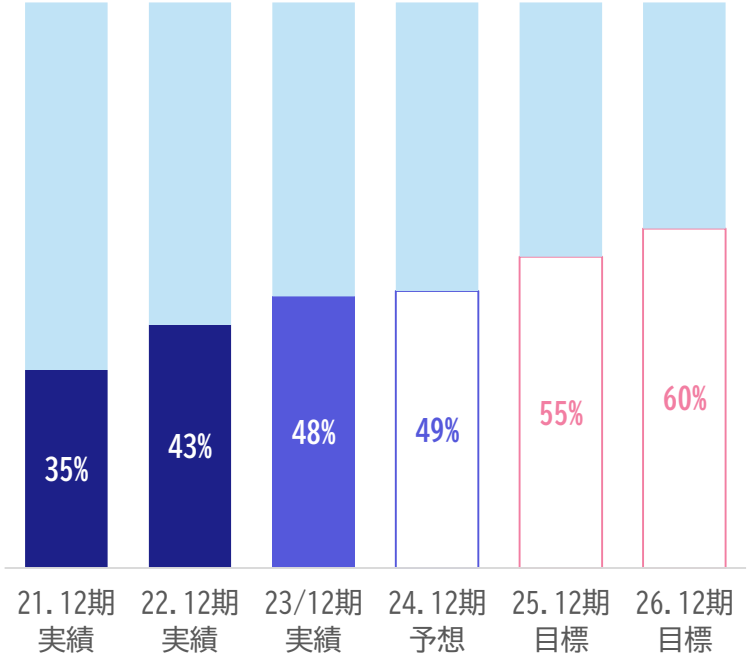
新商品の売上比率

・新商品売上比率が徐々に上昇
・EDLC向けは大幅売上増



自動車市場向け売上比率（推定値）

・車載市場向けグローバルマーケットシェア95%維持
・海外車載市場での拡販を進める



市場環境・経営環境について － 光部品・デバイス事業

1. 市場環境、受注動向

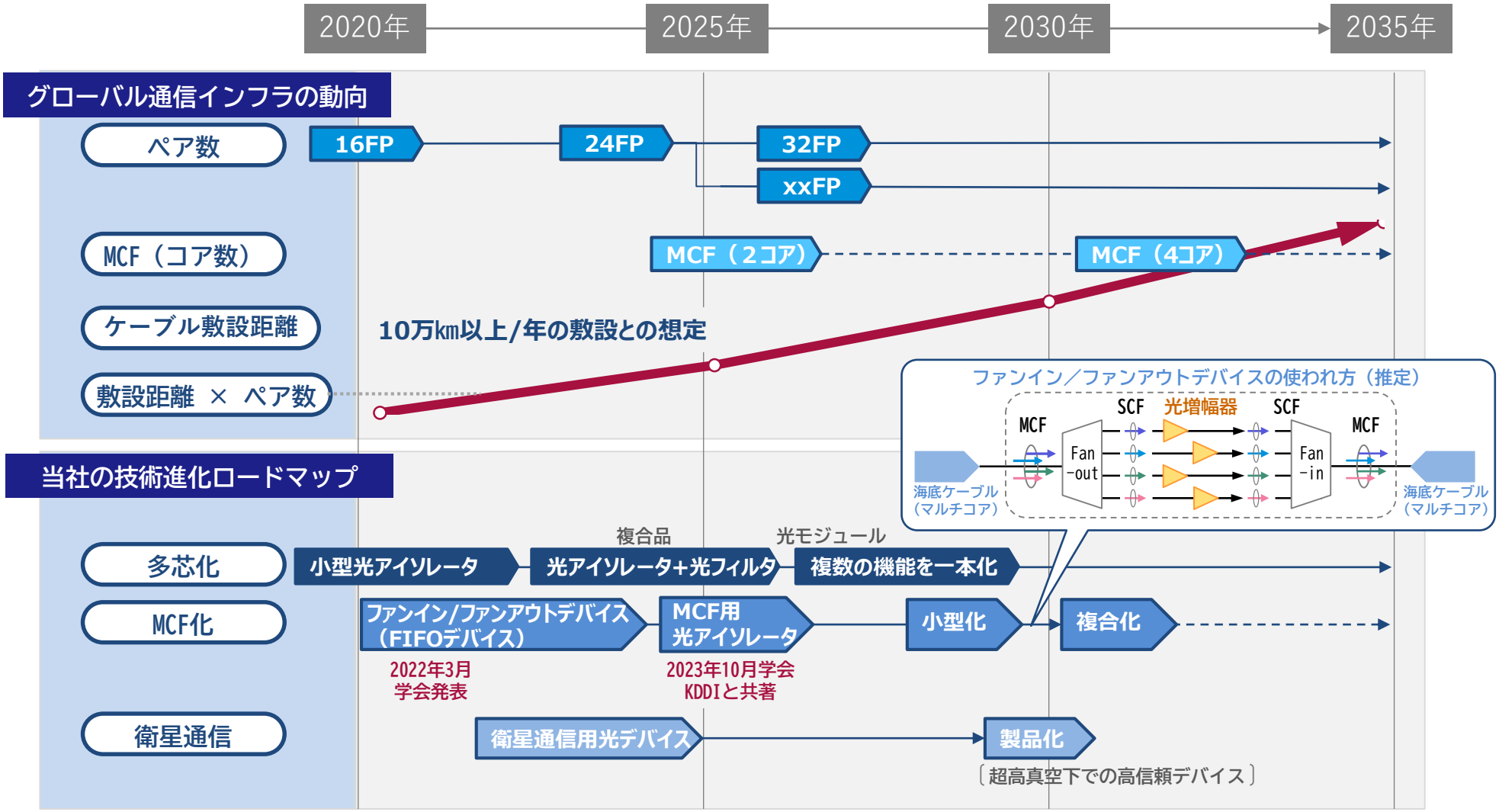
	2024/12期予想（当初コメント）	2024/12期中間期の状況	2024/12期3Q以降の見通し
(1)市場動向	➢ 光アイソレータは堅調が続く見通し ➢ 光フィルタは年央から回復の見通し ➢ 後半は、長期視点の海底ケーブルプロジェクトによる回復を見込む	➢ 海底ケーブル用光デバイスが想定以上の回復基調を示した ➢ 光フィルタについても売上が増加 ➢ 海底ケーブル向け受注は増加傾向続く	➢ 光アイソレータ、光フィルタともに売上はさらに上昇 ➢ 25年に向けての受注も増加の見通し

2. 当社の経営環境

	2024/12期予想（当初コメント）	2024/12期中間期の状況	2024/12期3Q以降の見通し
(1)製品開発	➢ 複合デバイス新製品。24年後半に量産サンプル出荷。25年売上貢献に期待 ➢ 従来のシーズ開発から次世代技術やプラットフォーム開発に移行	➢ デザインレビュー完成 ➢ マルチコアファイバ用光デバイスのサンプル出荷を開始	➢ 複合デバイスの顧客での評価スタート ➢ 衛星通信用などに高信頼性光デバイスの拡販及び引き合いに対応
(2)生産性他	➢ スリランカでの半自動生産装置を増設、生産能力増強	➢ 今後の受注増に対応し、スリランカで大幅人員増	➢ スリランカ工場での半自動装置を増設、生産可能アイテムを拡大

市場開拓による事業規模の拡大（光部品・デバイス事業）

複合品のサンプル供給を下期に開始、マルチコアファイバ向けも開発が進む



これまでの成果 － 中期経営計画の進捗状況（まとめ）

・基盤事業（リード端子）の収益力強化を実現する

- 不採算アイテムの価格是正、小ロット受注の取りまとめなど受発注効率化を推進
- 新商品売上比率は、中間期15.9%。「バリレス」の採用が遅れるも、EDLC用高機能製品の売上は増加

・成長事業(光部品・デバイス)のシェア拡大と新製品開発を実現する

- 海底ケーブルの多芯化に対応した複合デバイス、デザインレビュー完成
- マルチコアファイバ向け次世代接続部品（ファンイン/ファンアウトデバイス）を開発、18,000kmの長距離ファイバ伝送を実証

・コア技術を活用した次世代事業を育成する

- 2023年7月から紫外線用非球面レンズの量産を開始
- 半導体関連装置ほか顧客向けにサンプル出荷。初期評価が進捗
- サンプル提供先顧客からの商談が増加。中期計画最終年度売上7億円以上を目指す

・経営管理体制を強化し、強固な利益体質を構築する

- 非財務に関する活動推進体制強化、サステナビリティ委員会発足
- IT基幹システムの再構築、サイバー攻撃対応など、内部管理体制強化を推進
- 将来の技術拠点拡充に向けて、米原駅前に事業用地を確保

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、様々な条件・要素によりこの計画や予想数値とは異なる結果になることがあります。この資料はその実現を確約したり、保証するものではございません。

湖北工業株式会社　広報・IR担当
E-mail　ir@kohokukogyo.co.jp
TEL 0749(85)3211　　FAX 0749(85)3217